

箕輪町女性活躍推進意識調査 (一般町民)

経過比較から読み取れること

平成 29 年・令和 3 年・令和 7 年比較

箕輪町 多文化共生・男女共同参画推進室

1 全体の傾向

今回の経過比較からは、町民の意識として、男性の家庭参画、性別にとらわれない子育て、女性の就労継続などについて、平成29年・令和3年と比べて前向きな変化が見られます。男女共同参画や女性活躍の考え方は、町民意識の中に一定程度浸透してきていると考えられます。

一方で、実際の生活や地域活動、職場に目を向けると、家事・育児・介護の負担、地域役職における男性中心の慣習、職場での昇給・昇格や賃金面での不平等感など、実態面の課題は残っています。特に令和7年の自由意見からは、「男女の数をそろえること」よりも、「本人の意思や能力が尊重されること」「家庭や地域、職場で実際に動ける環境があること」を求める声が強いことが読み取れます。

2 主なポイント一覧

分野	読み取れること
家庭・子育て	男性の家事・育児・介護参加への明確な賛成が増加し、性別で役割を分けない子育て観も強まっている。
就労継続	結婚・出産後も女性が働き続けることへの肯定感が高まっている。
両立課題	育児・家事・介護の負担は依然として大きく、パートナーの理解・協力も課題として残る。
支援ニーズ	保育・学童等の施設整備に加え、柔軟な働き方や男性育休など職場環境への関心が広がっている。
地域活動	参加している活動がない人が一定数あり、参加のきっかけづくりや負担軽減が必要。
方針決定	「性別に関係なく力のある人が担うべき」という意識が強い一方、女性が参画しにくい慣習も残る。
職場の平等感	研修や採用では平等感が比較的高いが、昇給・昇格・賃金では男性優遇感が残る。
DV・相談窓口	言葉の認知は一定程度あるが、相談窓口を知らない人が増えており、周知方法の見直しが必要。

3 家庭・子育てに関する意識

家事・育児・介護への男性参加に「賛成」とする割合は、令和7年で83.5%となり、平成29年から大きく上昇しています。単に「どちらかといえば賛成」ではなく、明確に「賛成」と答える人が増えていることから、男性の家庭参画は町民意識としてかなり浸透してきていると考えられます。

家庭での男の子と女の子のしつけや教育についても、「男女の区別はせず、しつけや教育をするのがよい」が令和7年で67.3%となっており、性別によって役割や期待を分けない考え方が強まっています。

4 女性の就労継続に関する意識

「女性が結婚・出産後も働き続けること」については、令和7年で「結婚・出産後もできるだけ仕事を続けるのがよい」が65.1%となり、平成29年から17.2ポイント増加しています。一方で、「結婚・出産まで職業をもち、以後は家事に専念するのがよい」は大きく低下しています。

結婚や出産を機に女性が仕事を辞めるという従来型の考え方は弱まり、本人の希望や家庭の状況に応じて働き続けることを肯定する意識が広がっています。ただし、自由意見では「本人が決めること」「家庭の状況による」といった声も多く、就労継続を一律に求めるのではなく、選択できる環境づくりが重要と受け止められています。

5 働き続ける上での課題

女性が働き続けることの妨げとして、令和7年では「子育て・育児負担」が最も高く、次いで「家事負担」「家族の介護」などが挙げられています。平成29年と比べると、子育て・育児負担の割合は下がっているものの、依然として主要な課題です。

また、「配偶者・パートナーの理解が得られない」は平成29年より増加しており、制度や施設だけでなく、家庭内での理解・協力、特にパートナーとの役割分担が引き続き重要です。

6 必要とされる支援の広がり

女性が働き続けるために必要な施設・サービスでは、令和7年も「3歳未満児保育施設」「放課後小学生の面倒を見る施設」「夜間・長時間の保育施設」など、子育て支援に関する項目が上位にあります。

一方で、令和7年では「DX推進による柔軟な働き方」や「男性の育児休業取得促進」も項目として加わっています。支援ニーズは施設整備だけでなく、働き方そのものの見直しや、男性側の育児参加を後押しする方向にも広がっています。

7 地域活動と方針決定過程への参画

現在参加している地域活動では、令和7年に「参加している活動はない」が31.1%となっており、自治会・区常会への参加は一定程度あるものの、スポーツ・趣味・親睦活動やボランティアなどは平成29年と比べて低下しています。

方針決定過程への女性参画については、令和7年では「性別に関係なく力のある人がなればよい」が最も高くなっています。町民の意識としては、女性の参画自体を否定しているというよりも、「女性だから増やす」「男性だから担う」という考え方ではなく、性別に関係なく適任者が役割を担うべきだという意識が強いと考えられます。

8 地域の役職や慣習に残る課題

問18では、「力仕事は男性、接待は女性と決まっている」「区・公民館やPTAの会長は男性と決まっている」など、一部の項目で令和3年より改善が見られます。

一方で、「役職や組織の運営事項は男性だけで決めている」「女性が責任ある役職につこうとすると反対される」「地域の共同作業に女性が出た場合、一人前とみられない」といった項目は上昇しています。表面的な固定観念は弱まりつつある一方で、実際の地域運営や役職の場面では、まだ男性中心の慣習や女性が出にくい空気が残っている可能性があります。

9 職場における男女平等感

職場での男女平等については、「研修の機会や内容」「採用時の条件」などでは「平等」とする割合が比較的高くなっています。一方で、「昇給や昇格」「賃金」では令和7年でも「男性が優遇」とする割合が高く、待遇や評価に関わる部分では、男女平等が十分に実感されていない状況がうかがえます。

「育児・介護休業の取得」では「女性が優遇」とする回答が最も高いものの、平成 29 年と比べると低下しており、男性の育児・介護参加や休業取得への意識が少しずつ変化している可能性があります。

10 DV・相談窓口の認知

配偶者暴力防止法やデート DV については、「言葉と意味の両方を知っている」とする割合が一定程度あります。特にデート DV は令和 3 年から令和 7 年にかけて認知が高まっています。

一方で、暴力を受けた場合の相談窓口については、令和 7 年で「知らない」が 27.8%となり、令和 3 年より大きく増えています。制度や言葉の認知が進んでも、実際に困ったときの相談先が十分に知られていないことが課題です。

11 今後の施策に向けた視点

保育・介護サービスの充実：子育て・介護負担は引き続き大きく、施設・サービス整備は基盤的な支援として重要です。

柔軟な働き方の促進：DX やテレワーク、時短勤務など、家庭状況に応じて働き続けられる環境づくりが求められます。

男性の家庭参画の後押し：意識面では賛成が広がっているため、実際の家事・育児・介護参加につながる仕組みづくりが必要です。

地域役職の担い方の見直し：役職や運営が男性中心になりやすい慣習を見直し、性別に関係なく参加しやすい運営方法を検討する必要があります。

相談窓口の周知強化：DV 等の相談先を知らない人が増えているため、広報紙、ホームページ、学校、職場、地域組織など複数経路での周知が必要です。

12 まとめ

今回の比較から、町民意識は「男性も家庭を担う」「女性も働き続ける」「性別に関係なく役割を担う」方向へ変化しています。その一方で、実際の生活や地域、職場では、育児・家事・介護の負担、地域役職の慣習、待遇面での不平等感などが残っています。今後は、女性の参加割合を増やす

ことだけを目的とするのではなく、誰もが無理なく家庭・仕事・地域活動に関われる環境づくりを進めることが重要です。

**箕輪町女性活躍推進意識調査
(一般町民)**

アンケート集計報告書

箕輪町 多文化共生・男女共同参画推進室

I 調査の設計

◆調査の目的

この報告書は、箕輪町女性活躍推進意識調査アンケートをまとめたものです。

本調査は、町民が女性の活躍推進についてどのような認識が明らかにし、箕輪町の施策の基礎資料とすることを目的としています。

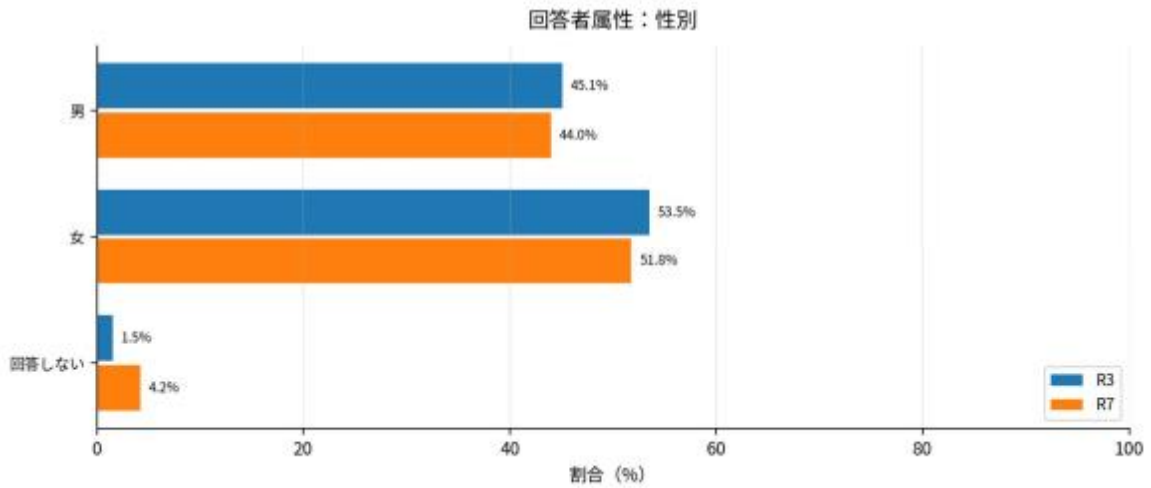
◆調査設計・回収結果（年度別比較）

年度	調査対象	調査方法	調査期間	有効回答数	回収率	備考
平成 29 年	町内在住者 600 人	郵送配布	—	—	—	H29 値は令和 3 年 報告書記載データ を使用
令和 3 年	町内在住者 600 人	郵送配布、郵送回 収またはインター ネット回答	令和 3 年 8 月 6 日～9 月 5 日	344 人	57.3%	
令和 7 年	町内在住の 600 人	郵送配布、郵送回 収またはインター ネット回答	令和 7 年 10 月 1 日～10 月 31 日	284 人	47.3%	

II 回答者属性

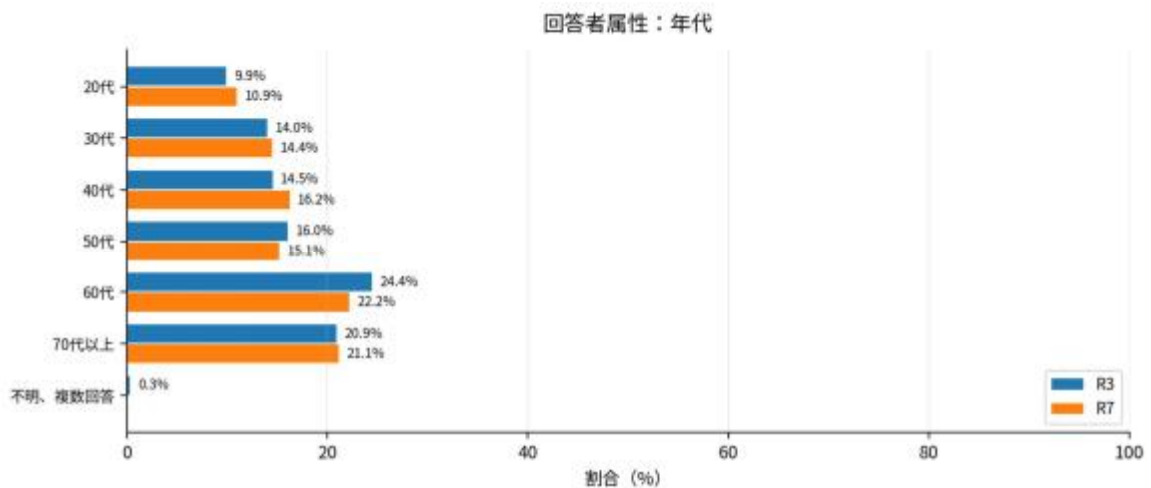
回答者属性について、令和3年と令和7年の比較が可能な項目はグラフと表で整理しています。平成29年の属性値は不明のため、標記はありません。

Face1 性別



区分	H29	R3	R7
男	—	45.1%	44.0%
女	—	53.5%	51.8%
回答しない	—	1.5%	4.2%

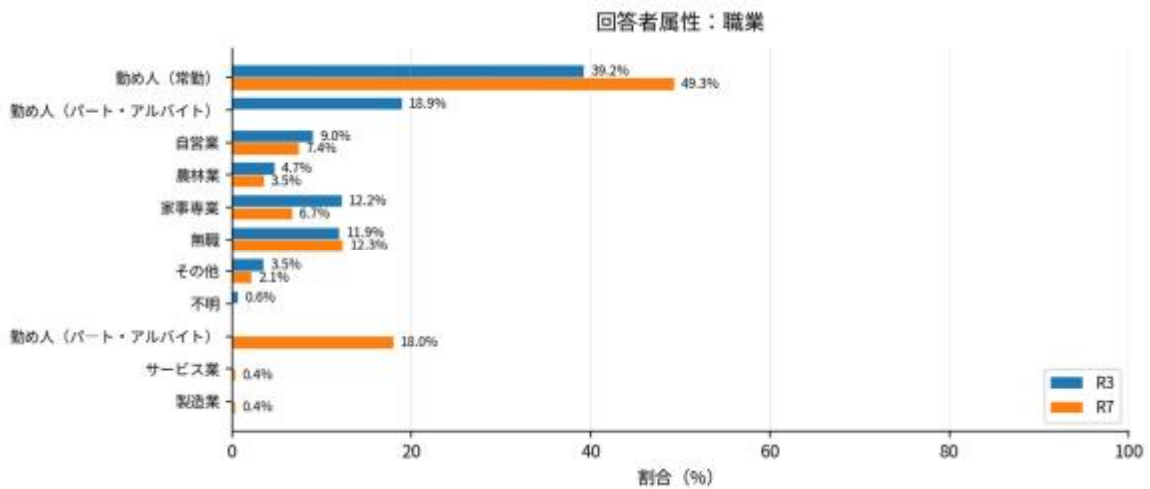
Face2 年代



区分	H29	R3	R7
20代	—	9.9%	10.9%

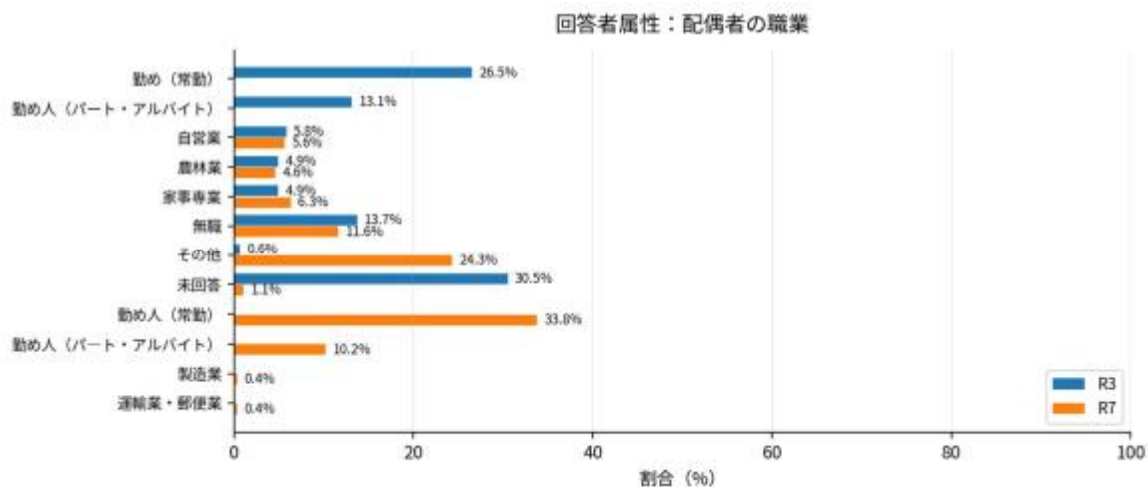
30代	—	14.0%	14.4%
40代	—	14.5%	16.2%
50代	—	16.0%	15.1%
60代	—	24.4%	22.2%
70代以上	—	20.9%	21.1%
不明、複数回答	—	0.3%	—

Face 3 職業



区分	H29	R3	R7
勤め人 (常勤)	—	39.2%	49.3%
勤め人 (パート・アルバイト)	—	18.9%	—
自営業	—	9.0%	7.4%
農林業	—	4.7%	3.5%
家事専業	—	12.2%	6.7%
無職	—	11.9%	12.3%
その他	—	3.5%	2.1%
不明	—	0.6%	—
勤め人 (パート・アルバイト)	—	—	18.0%
サービス業	—	—	0.4%
製造業	—	—	0.4%

Face 4 配偶者の職業

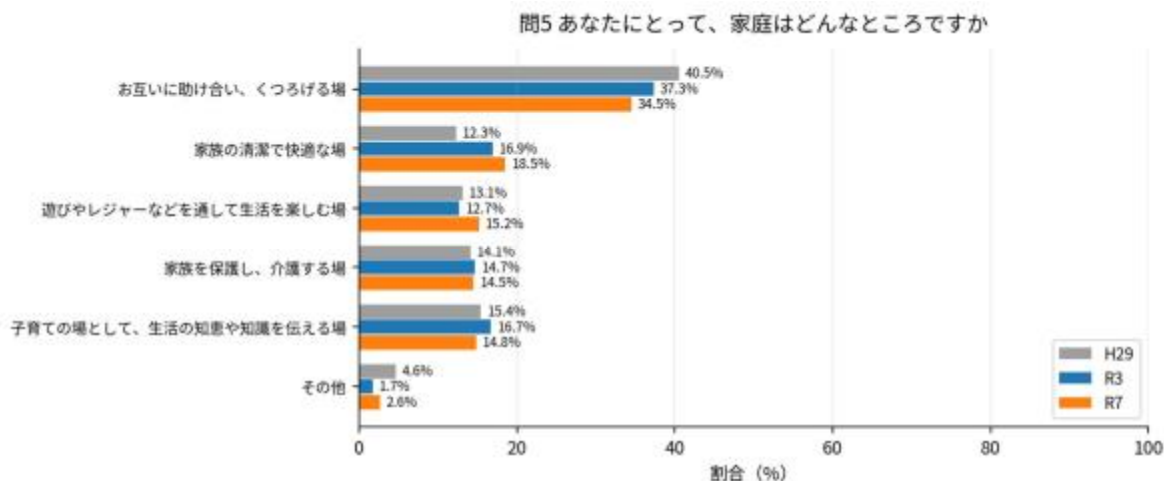


区分	H29	R3	R7
勤め (常勤)	—	26.5%	—
勤め人 (パート・アルバイト)	—	13.1%	—
自営業	—	5.8%	5.6%
農林業	—	4.9%	4.6%
家事専業	—	4.9%	6.3%
無職	—	13.7%	11.6%
その他	—	0.6%	24.3%
未回答	—	30.5%	1.1%
勤め人 (常勤)	—	—	33.8%
勤め人 (パート・アルバイト)	—	—	10.2%
製造業	—	—	0.4%
運輸業・郵便業	—	—	0.4%

III 調査結果

問5 あなたにとって、家庭はどんなところですか

回答種別：複数回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「お互いに助け合い、くつろげる場」が34.5%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「家族の清潔で快適な場」で、+6.2ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
お互いに助け合い、くつろげる場	40.5%	37.3%	34.5%	-6.0
家族の清潔で快適な場	12.3%	16.9%	18.5%	+6.2
遊びやレジャーなどを通して生活を 楽しむ場	13.1%	12.7%	15.2%	+2.1
家族を保護し、介護する場	14.1%	14.7%	14.5%	+0.4
子育ての場として、生活の知恵や 知識を伝える場	15.4%	16.7%	14.8%	-0.6
その他	4.6%	1.7%	2.6%	-2.0

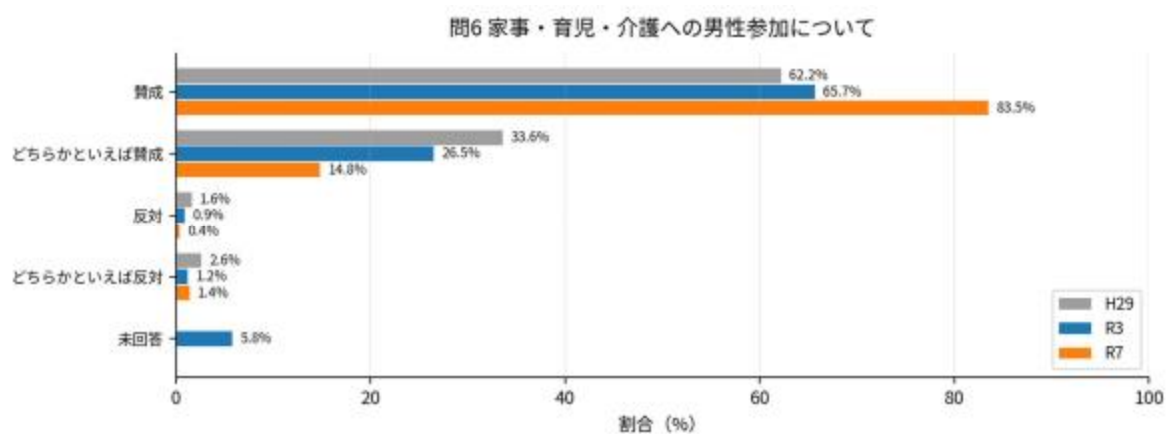
その他

子供（成人）達が集まる場所。
居場所。
忍耐するところ。
家族という関係性の中から魂の学びを深め気づきを得て、自身の成長につなげる場。
夢を共有し明日も生きようと力をはぐくんでくれる場。

考えたことがない。
雨、風、暑さ、寒さをしのげる場所。
生活の場所。
今は私一人の生活ですので、何があてはまるのかわかりません。
安心できる場所。
未婚。
寝に帰る場所。
1 に対して逆に隣人たる家族間での問題でアレコレする法定であり、冷戦の起こる戦場。
思いやり。
お互いの価値観や考え方を理解し合い、自分の成長の場にもなっています。

問6 家事・育児・介護への男性参加について

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

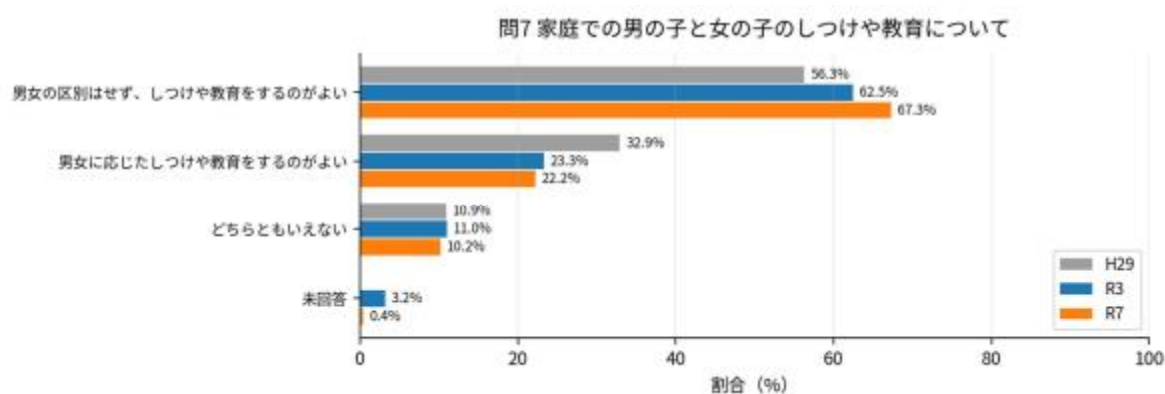


令和7年では「賛成」が83.5%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「賛成」で、+21.3ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
賛成	62.2%	65.7%	83.5%	+21.3
どちらかといえば賛成	33.6%	26.5%	14.8%	-18.8
反対	1.6%	0.9%	0.4%	-1.2
どちらかといえば反対	2.6%	1.2%	1.4%	-1.2
未回答	0.0%	5.8%	0.0%	+0.0

問7 家庭での男の子と女の子のしつけや教育について

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

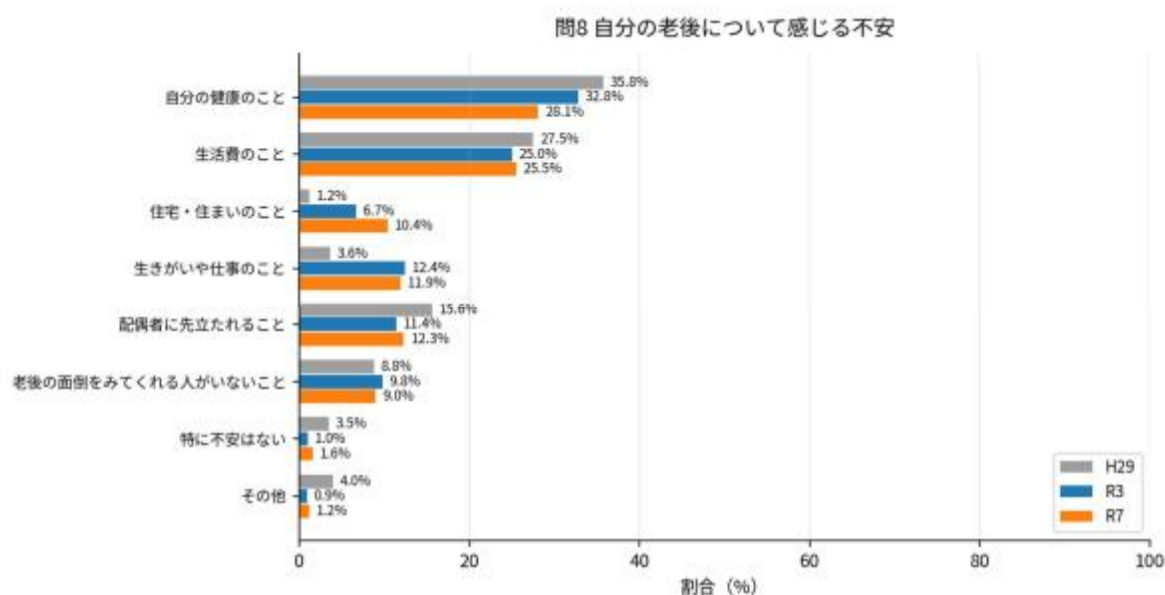


令和7年では「男女の区別はせず、しつけや教育をするのがよい」が67.3%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「男女の区別はせず、しつけや教育をするのがよい」で、+11.0ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男女の区別はせず、しつけや教育をするのがよい	56.3%	62.5%	67.3%	+11.0
男女に応じたしつけや教育をするのがよい	32.9%	23.3%	22.2%	-10.7
どちらともいえない	10.9%	11.0%	10.2%	-0.7
未回答	0.0%	3.2%	0.4%	+0.4

問8 自分の老後について感じる不安

回答種別：複数回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「自分の健康のこと」が28.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「住宅・住まいのこと」で、+9.2ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
自分の健康のこと	35.8%	32.8%	28.1%	-7.7
生活費のこと	27.5%	25.0%	25.5%	-2.0
住宅・住まいのこと	1.2%	6.7%	10.4%	+9.2
生きがいや仕事のこと	3.6%	12.4%	11.9%	+8.3
配偶者に先立たれること	15.6%	11.4%	12.3%	-3.3
老後の面倒をみてくれる人がいないこと	8.8%	9.8%	9.0%	+0.2
特に不安はない	3.5%	1.0%	1.6%	-1.9
その他	4.0%	0.9%	1.2%	-2.8

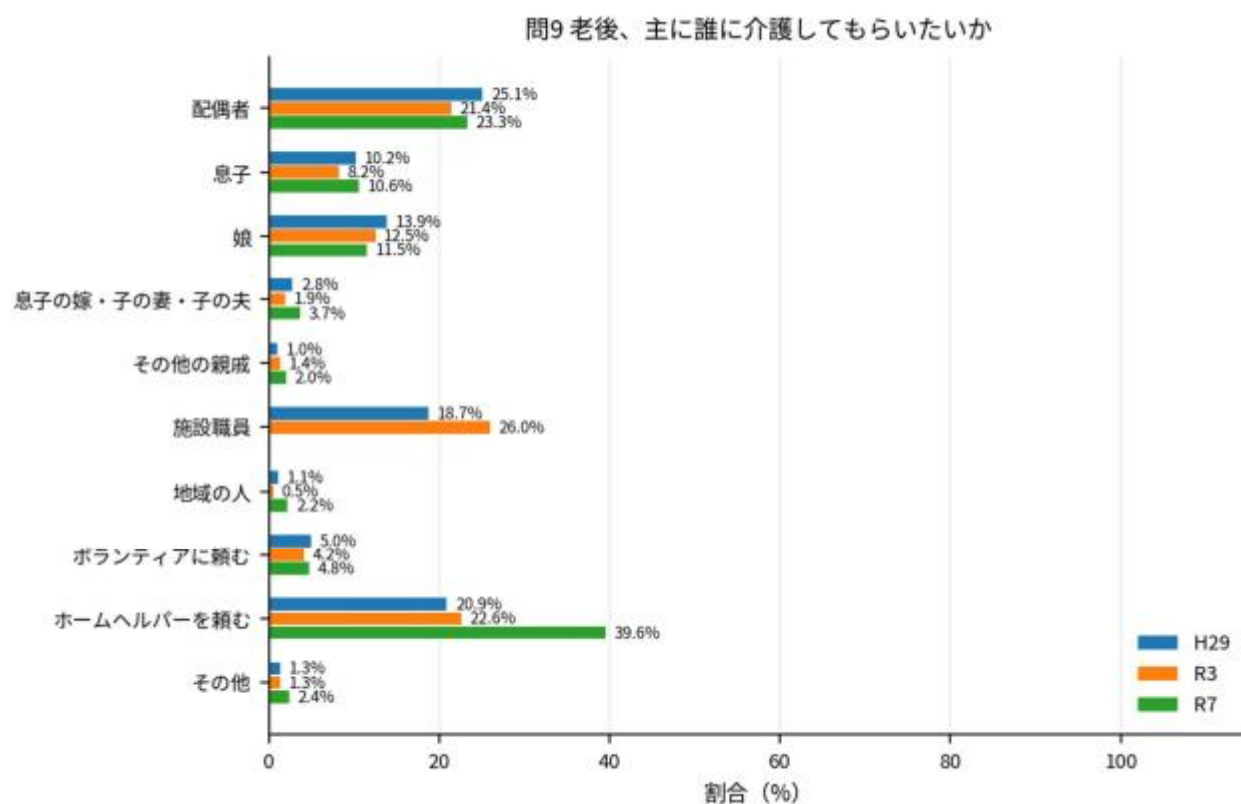
その他

介護を担う人手不足。
交通手段。
高齢者ばかりの地域で住宅はもちろん、地域の係り等独り息子だけに負担が大きく不安。
子どもたちの生活が自立してきちんとできるか。

年金もらえるか心配。
自然災害・人災。
配偶者がいない。
自分のことが自分でできなくなった時、家族以外の介護制度のみ活用して生活していけるか心配です。金銭面、提供サービス面、自分の希望する生活と一致するか等。
子供の将来。

問9 老後、主に誰に介護してもらいたいか

回答種別：複数回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「施設職員」が26.0%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「施設職員」で、+7.3ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
配偶者	25.1%	21.4%	23.3%	-1.8
息子	10.2%	8.2%	10.6%	+0.4
娘	13.9%	12.5%	11.5%	-2.4
息子の嫁・子の妻・子の夫	2.8%	1.9%	3.7%	+0.9
その他の親戚	1.0%	1.4%	2.0%	+1.0
施設職員	18.7%	26.0%	有料サービスを利用するへ集約	
地域の人	1.1%	0.5%	2.2%	+1.1
ボランティアに頼む	5.0%	4.2%	4.8%	-0.2

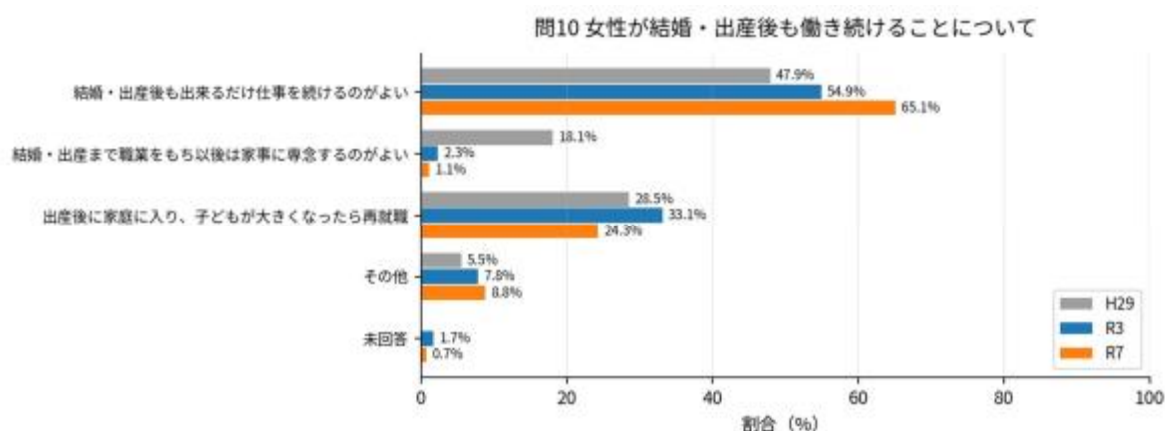
ホームヘルパーを頼む（R7 有料サービスを利用する）	20.9%	22.6%	39.6%	+18.7
その他	1.3%	1.3%	2.4%	+1.1

その他

親。
病院など。
そもそも、不自由になるかも、、、という意識をもっていない。意識によって、その先の現実を創るので、なっほしくないことは意識しない。
死ぬことを選ぶ。
現在、父母弟と住んでいますが、結婚できるかどうかともわからないので、わからない。
自分自身。
友人。
人類の文明が進むことを期待して人間以外。
思い付かない!!
施設や病院。
可能な限りサービス受けて自宅で、その後は施設。

問10 女性が結婚・出産後も働き続けることについて

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「結婚・出産後も出来るだけ仕事を続けるのがよい」が65.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「結婚・出産後も出来るだけ仕事を続けるのがよい」で、+17.2ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
結婚・出産後も出来るだけ仕事を続けるのがよい	47.9%	54.9%	65.1%	+17.2
結婚・出産まで職業をもち以後は家事に専念するのがよい	18.1%	2.3%	1.1%	-17.0
出産後に家庭に入り、子どもが大きくなったら再就職	28.5%	33.1%	24.3%	-4.2
その他	5.5%	7.8%	8.8%	+3.3
未回答	0.0%	1.7%	0.7%	+0.7

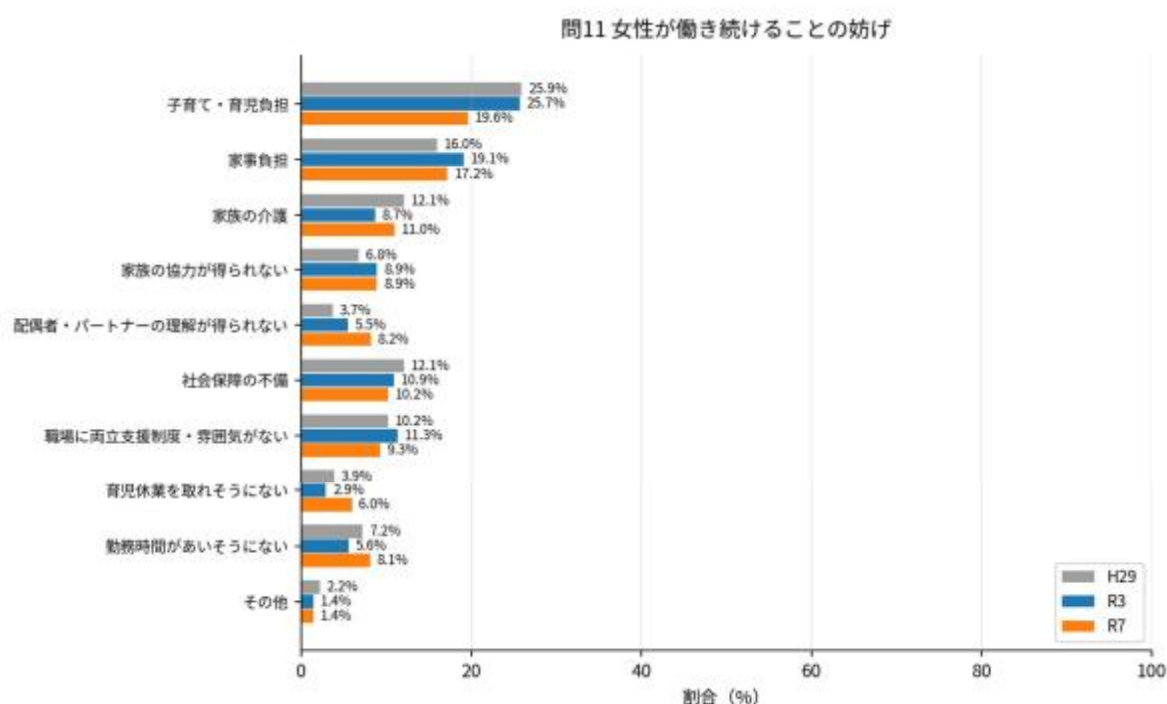
その他

結婚・出産後もできるだけ働き続けるのがよい→せざるを得ない。
働きたい気持ちがあるなら働けば良い。
家庭の状況や、出産した女性の精神状態によると思う。金銭面がどうにかなりそうなら、無理しない範囲で仕事をしていた方が楽という人もいるし、子どもがある程度手が離れるまでは子どもに手をかけてあげたいと思う人もいると思う。
人それぞれ。
結婚できない（障害者なので）。
その人のしたいようにすればよい。
仕事は好きなので続けたいが、子供がある程度まで大きくなるまで育てたいという気持ちはある。

人それぞれでよい。
その人のできる範囲で。
どういった立場からの質問でしょうか。決めるのは本人では。質問返しで申し訳ないです。
好きにすればいい。
その人のやりたいようにすればいい。
あまりに共働きすぎて、もう少し子供と一緒に時間をとった方が良いと思う。自由になりすぎて、子供ってなんだろうと思う時がある。
質問のような価値観にとられることなく自由選択できる社会がよい。
本人の気持ちを尊重する。
特に決まりはない。
人それぞれ。
本人が決めること。
結婚後は賛成。出産後については続けるが良いとは思いますが、子どものことを想ったら、子どもの個人差もあるが、ある程度の期間は家庭に入っても良いと思う。ただし、女親に限らず男親の方が可能なら別である。
働くにしろ、家庭に入るにしろ、その人の希望が叶う環境が整っていれば良いと思います。
各々の自己決定を尊重される事が望ましい。
家庭の環境や状況による。
家庭ごと臨機応変に。
本人の意識を尊重すればよい。

問 11 女性が働き続けることの妨げ

回答種別：複数回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「子育て・育児負担」が19.6%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「子育て・育児負担」で、-6.3ポイントです。

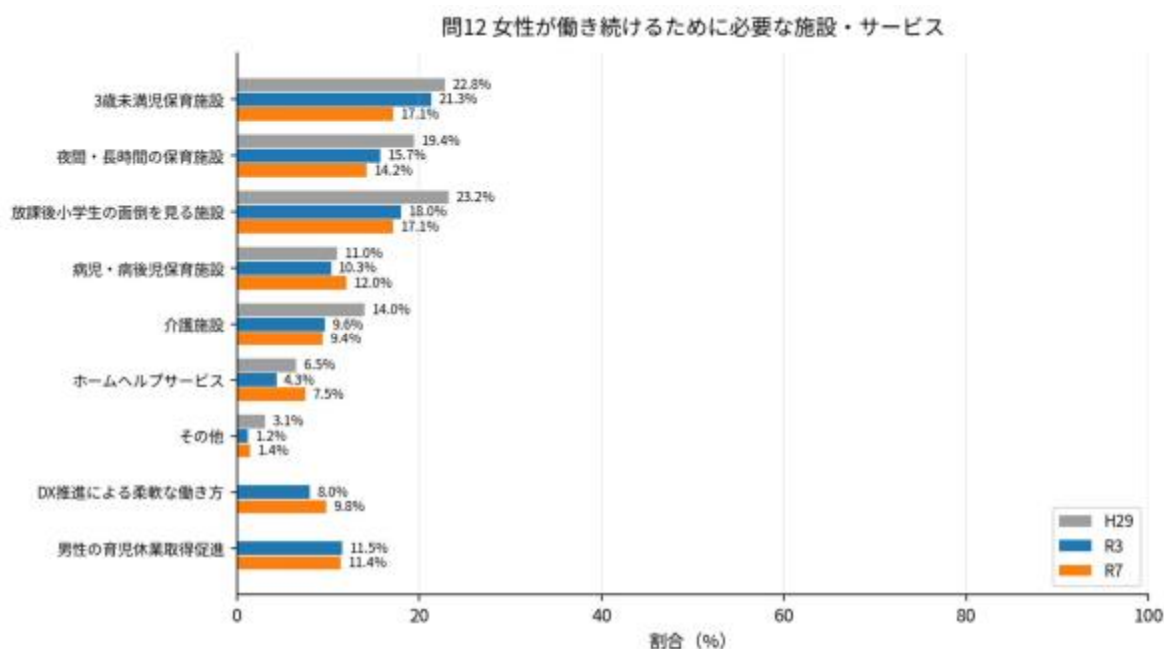
選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
子育て・育児負担	25.9%	25.7%	19.6%	-6.3
家事負担	16.0%	19.1%	17.2%	+1.2
家族の介護	12.1%	8.7%	11.0%	-1.1
家族の協力が得られない	6.8%	8.9%	8.9%	+2.1
配偶者・パートナーの理解が得られない	3.7%	5.5%	8.2%	+4.5
社会保障の不備	12.1%	10.9%	10.2%	-1.9
職場に両立支援制度・雰囲気がない	10.2%	11.3%	9.3%	-0.9
育児休業を取れそうにない	3.9%	2.9%	6.0%	+2.1
勤務時間があいそうにない	7.2%	5.6%	8.1%	+0.9
その他	2.2%	1.4%	1.4%	-0.8

その他

政治の不信感。
お金がすべて、になってしまった社会のしくみ。
？
考え方の問題。
育児休業そのものがなかった。
育児や子ども関係でそれによる仕事の負担を押し付けてしまうという事実と心理的負担。それをカバーしきれない会社の体制及びノウハウの蓄積不足。
休みを取りにくい現状。
妊娠などの身体的負担。
職場に限らず、社会全体の意識が追いついていない。
舅姑の偏見。
物価高により生活困難。
低所得者における環境のすべて。
わからない。
本人の意欲、能力。

問 12 女性が働き続けるために必要な施設・サービス

回答種別：複数回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「3歳未満児保育施設」が17.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「放課後小学生の面倒を見る施設」で、-6.1ポイントです。

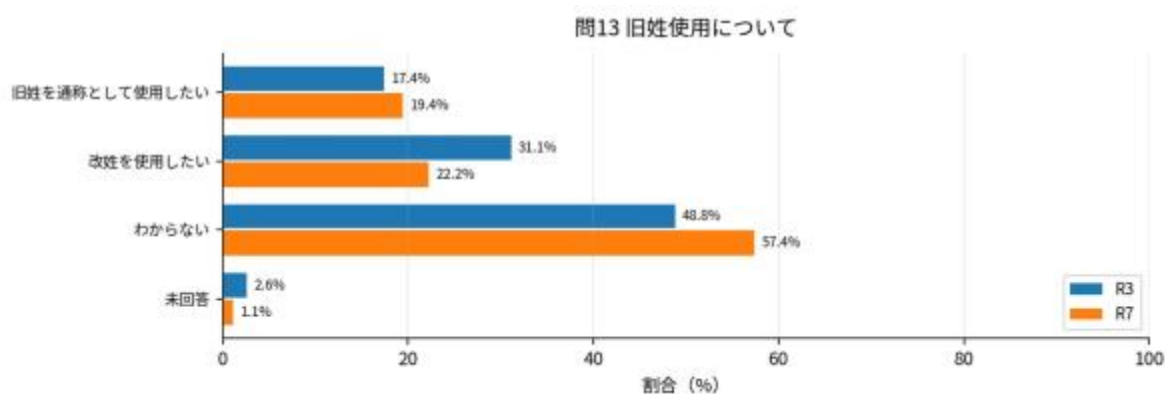
選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
3歳未満児保育施設	22.8%	21.3%	17.1%	-5.7
夜間・長時間の保育施設	19.4%	15.7%	14.2%	-5.2
放課後小学生の面倒を見る施設	23.2%	18.0%	17.1%	-6.1
病児・病後児保育施設	11.0%	10.3%	12.0%	+1.0
介護施設	14.0%	9.6%	9.4%	-4.6
ホームヘルプサービス	6.5%	4.3%	7.5%	+1.0
DX推進による柔軟な働き方	—	8.0%	9.8%	—
男性の育児休業取得促進	—	11.5%	11.4%	—
その他	3.1%	1.2%	1.4%	-1.7

その他

金銭の補助。
気兼ねなく休めたり遅刻早退しやすいような環境を作ると、それに伴って子どもがいない人はその人達の仕事を負担する事になるので、育児をしていない人への配慮（給料上げるや有給の取りやすさ等）も同じくらい考えないといけないと思う。
会社に託児、保育園。
できる方は同居。
？
父親の育児家事参加。
特に必要ない。
配偶者との WLB の分担。
DX 推進による多様で柔軟な働き方制度の導入促進の意味が判らない。
公共的人材派遣サービスによる（代替要員）負担軽減。社旗的な福祉サービス。
男女共に定時に帰宅でき、男女問わず育児家事に時間を使えること。
介護休暇の設定。
男女問わず、どちらかが働かなくても時短でも生活費が確保できる賃金。
男女関係なく、きめ細かい社会の仕組み。
わからない。

問 13 旧姓使用について

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

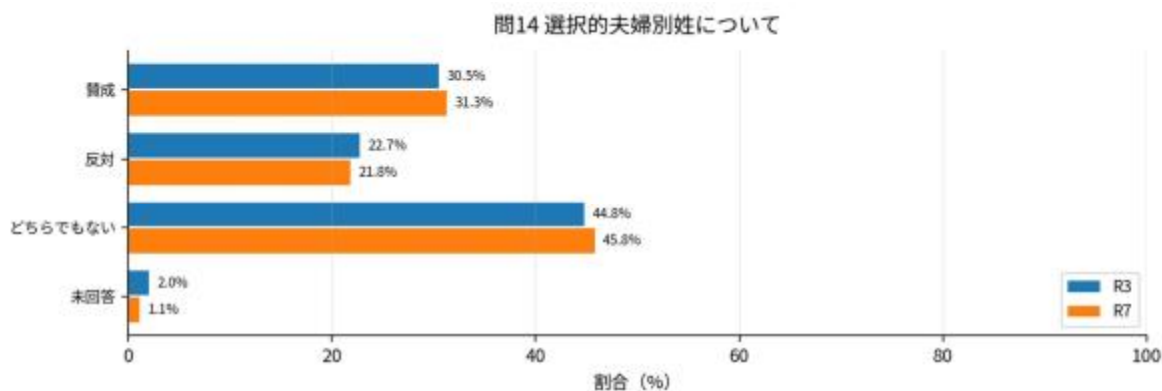


令和7年では「わからない」が57.4%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「改姓を使用したい」で、-8.9ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
旧姓を通称として使用したい	—	17.4%	19.4%	—
改姓を使用したい	—	31.1%	22.2%	—
わからない	—	48.8%	57.4%	—
未回答	—	2.6%	1.1%	—

問 14 選択的夫婦別姓について

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

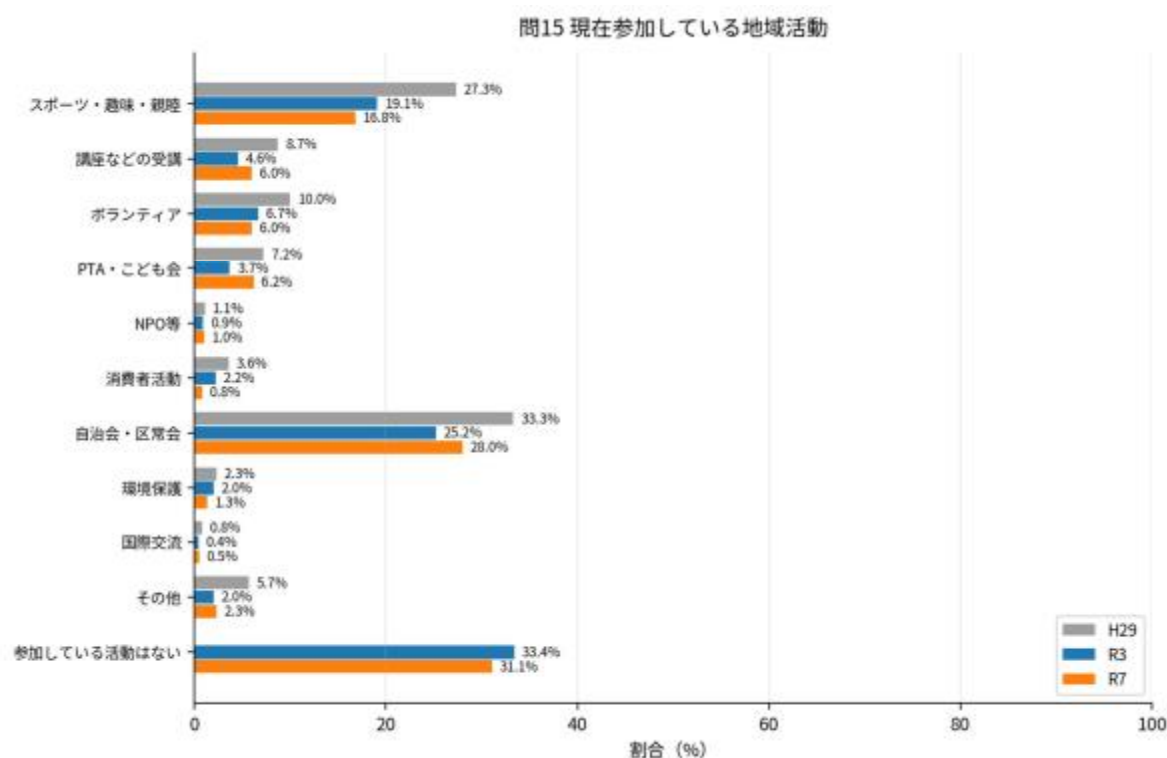


令和7年では「どちらでもない」が45.8%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「どちらでもない」で、+1.0ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
賛成	—	30.5%	31.3%	—
反対	—	22.7%	21.8%	—
どちらでもない	—	44.8%	45.8%	—
未回答	—	2.0%	1.1%	—

問 15 現在参加している地域活動

回答種別：複数回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「参加している活動はない」が31.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「スポーツ・趣味・親睦」で、-10.5ポイントです。

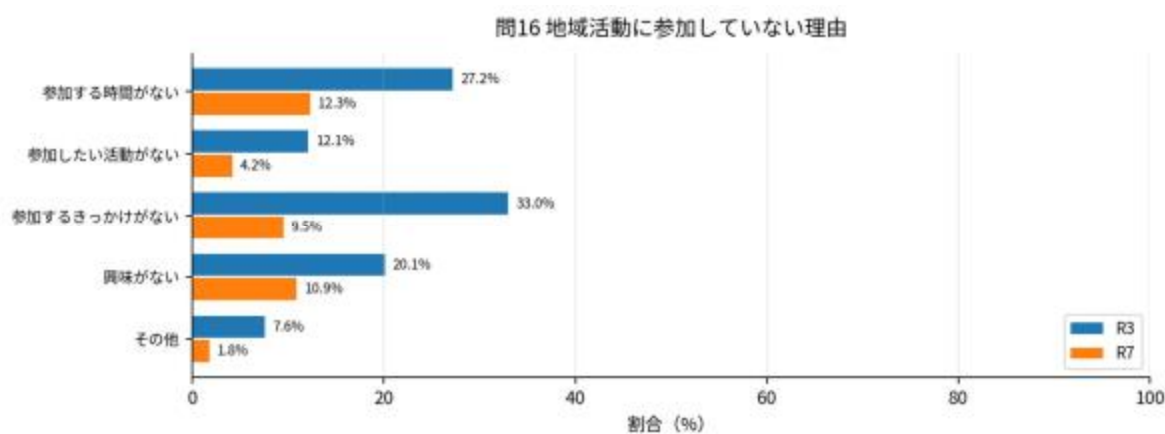
選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
スポーツ・趣味・親睦	27.3%	19.1%	16.8%	-10.5
講座などの受講	8.7%	4.6%	6.0%	-2.7
ボランティア	10.0%	6.7%	6.0%	-4.0
PTA・こども会	7.2%	3.7%	6.2%	-1.0
NPO等	1.1%	0.9%	1.0%	-0.1
消費者活動	3.6%	2.2%	0.8%	-2.8
自治会・区常会	33.3%	25.2%	28.0%	-5.3
環境保護	2.3%	2.0%	1.3%	-1.0
国際交流	0.8%	0.4%	0.5%	-0.3
参加している活動はない	—	33.4%	31.1%	—
その他	5.7%	2.0%	2.3%	-3.4

その他

参加したいが、忙しすぎて時間がない。
民生委員。
新聞等で講演会とかコンサートとか興味のあるのは、自分で申込をして行って居ます。
消防団。
用水路の草刈り。西天組合。
グループホームに勤めているので、仕事も時間が不規則で休みも曜日で決まってないので、ボランティアなど参加しづらい。しかし勤めていることにより社会と繋がっている感じがあるので、孤独感はない。介護職をしていることで、介護などのことについて相談も受けたりするので、少しは社会に貢献できていると思うことがある。

問 16 地域活動に参加していない理由

回答種別：複数回答 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「参加する時間がない」が12.3%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「参加するきっかけがない」で、-23.5ポイントです。

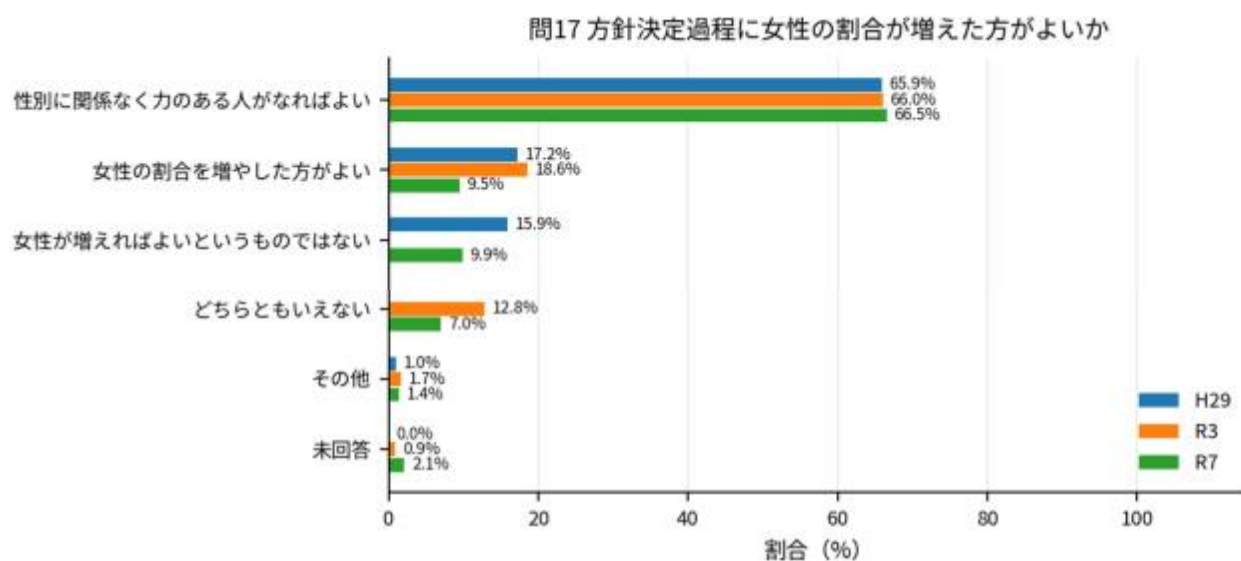
選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
参加する時間がない	—	27.2%	12.3%	—
参加したい活動がない	—	12.1%	4.2%	—
参加するきっかけがない	—	33.0%	9.5%	—
興味がない	—	20.1%	10.9%	—
その他	—	7.6%	1.8%	—

その他

健康面に問題あり。
知らなかった。

問 17 方針決定過程に女性の割合が増えた方がよいか

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「性別に関係なく力のある人がなればよい」が66.0%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「女性の割合を増やした方がよい」で、+1.4ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
性別に関係なく力のある人がなればよい	65.9%	66.0%	66.5%	+0.6
女性の割合を増やした方がよい	17.2%	18.6%	9.5%	-7.7
女性が増えればよいというものではない	15.9%	-	9.9%	-6.0
どちらともいえない	-	12.8%	7.0%	
その他	1.0%	1.7%	1.4%	+0.4
未回答	0.0%	0.9%	2.1%	+2.1

その他

男女関係なく、能力を持ち適材で本人がやる気なら良い。
能力に応じてやればよい。
女性の割合を増やした方がよい も選ばれていた。

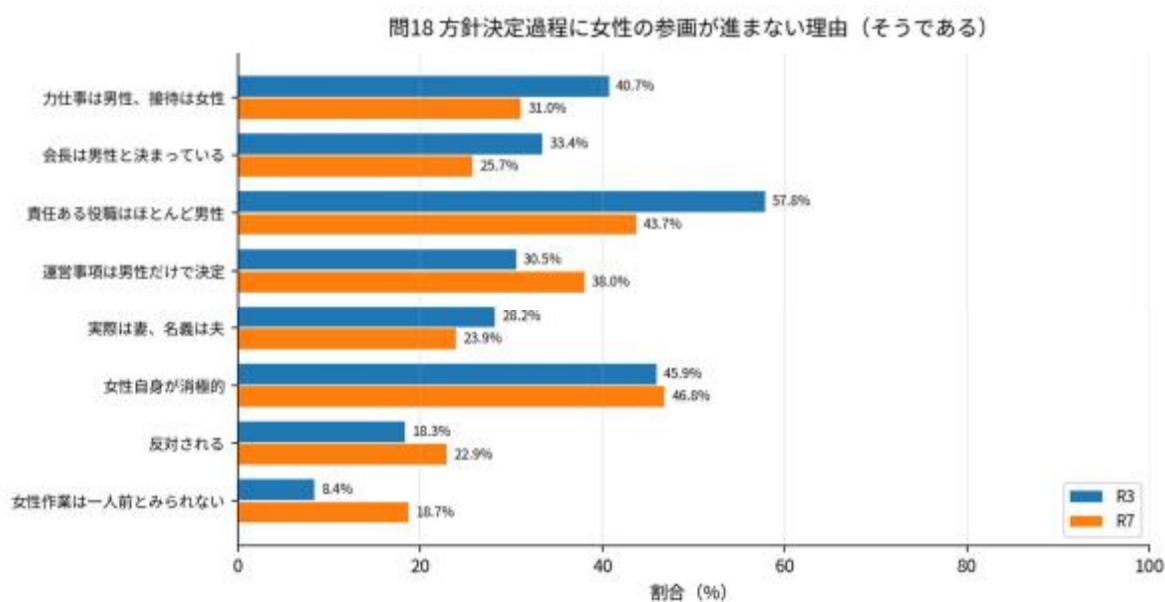
私の常会は順番制で、それで役を決めて居ます。

性別は関係なく能力が必要。

区の仕事として、力仕事や草刈り等もあり女性が出来ないこともある。また知らない方の自宅に訪問したり、話し合いをしなくてはいけなかつたり防犯上危ないこともある。適材適所は仕方がない。

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【「そうである」と回答した割合】

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

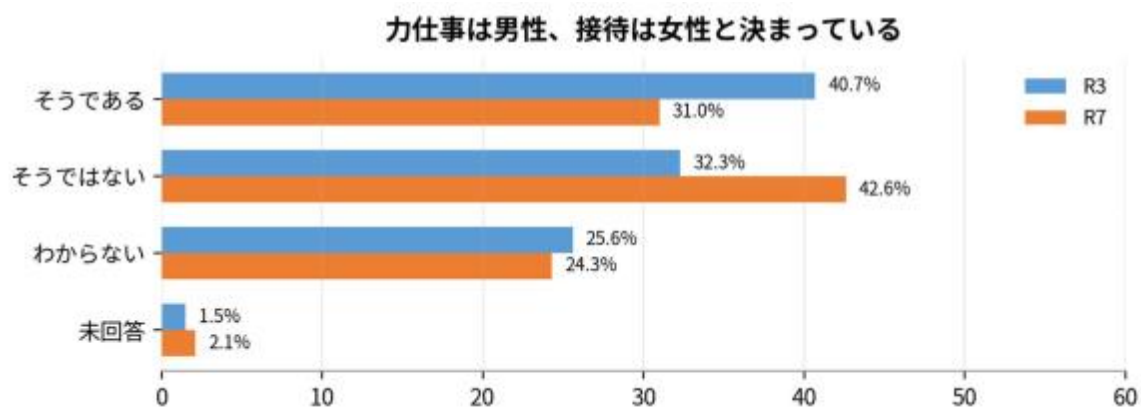


項目	R3	R7
力仕事は男性、接待は女性	40.7%	31.0%
会長は男性と決まっている	33.4%	25.7%
責任ある役職はほとんど男性	57.8%	43.7%
運営事項は男性だけで決定	30.5%	38.0%
実際は妻、名義は夫	28.2%	23.9%
女性自身が消極的	45.9%	46.8%
反対される	18.3%	22.9%
女性作業は一人前とみられない	8.4%	18.7%

上のグラフは、各項目について「そうである」と回答した割合を比較したものです。

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【力仕事は男性、接待は女性と決まっている】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

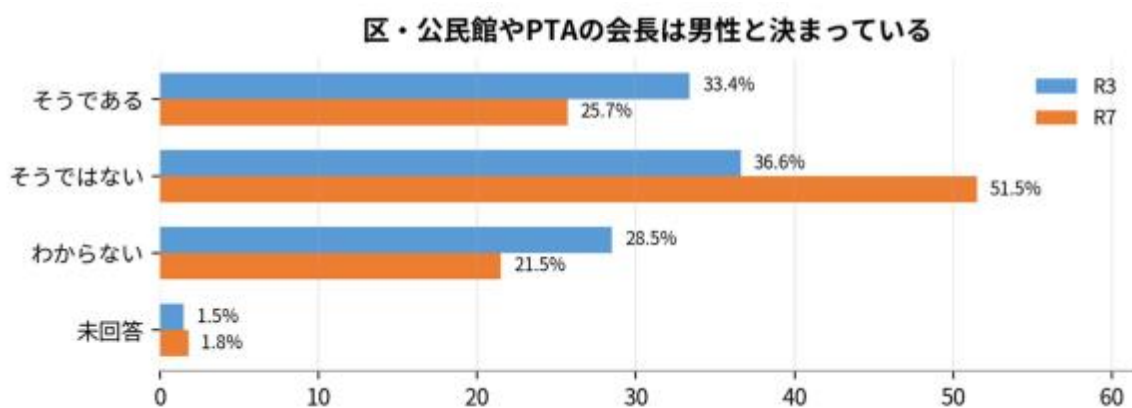


「そうである」は R3 の 40.7% から R7 は 31.0% となり、9.7 ポイント減少しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	40.7%	32.3%	25.6%	1.5%
R7	31.0%	42.6%	24.3%	2.1%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【区・公民館やPTAの会長は男性と決まっている】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

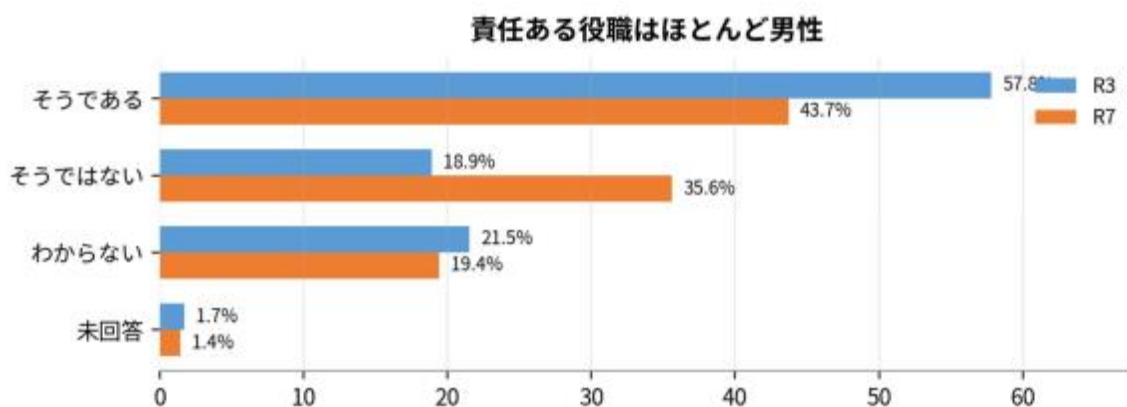


「そうである」は R3 の 33.4% から R7 は 25.7% となり、7.7 ポイント減少しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	33.4%	36.6%	28.5%	1.5%
R7	25.7%	51.5%	21.5%	1.8%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【区・公民館や PTA の責任ある役職はほとんど男性である】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

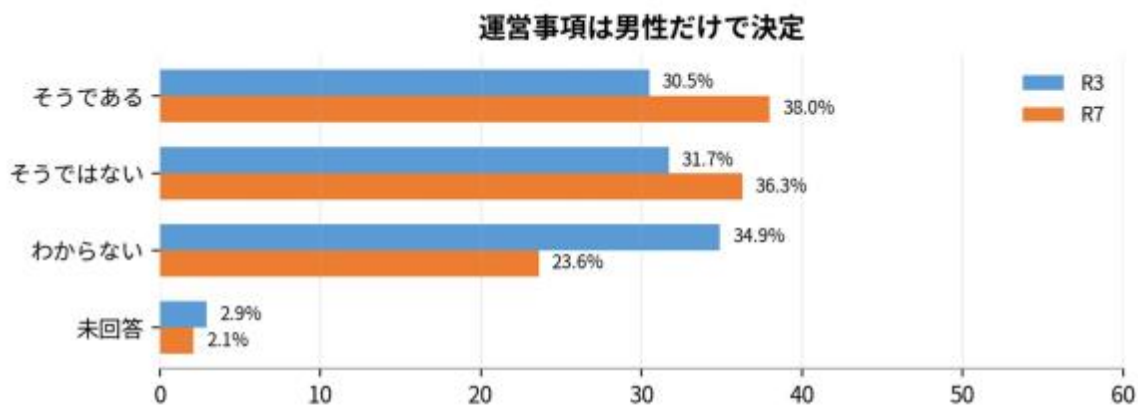


「そうである」は R3 の 57.8% から R7 は 43.7% となり、14.1 ポイント減少しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	57.8%	18.9%	21.5%	1.7%
R7	43.7%	35.6%	19.4%	1.4%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【役職や組織の運営事項は男性だけで決めている】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

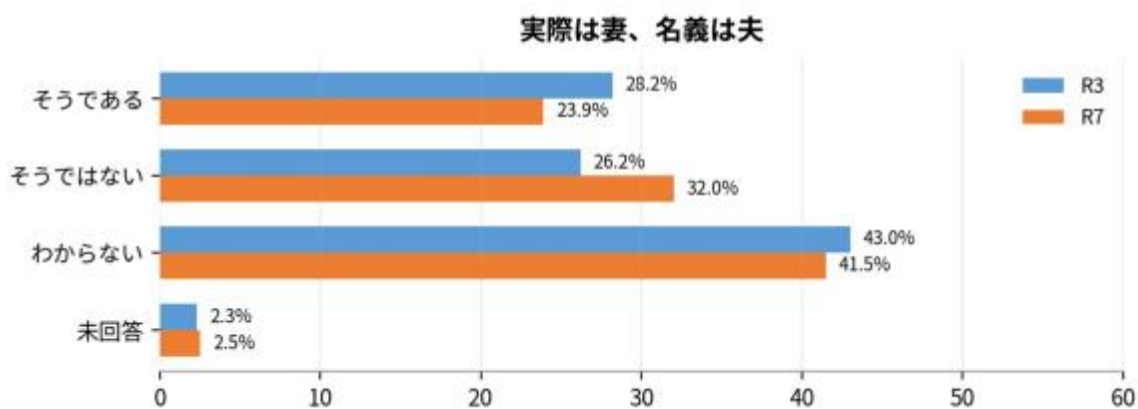


「そうである」は R3 の 30.5% から R7 は 38.0% となり、7.5 ポイント増加しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	30.5%	31.7%	34.9%	2.9%
R7	38.0%	36.3%	23.6%	2.1%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

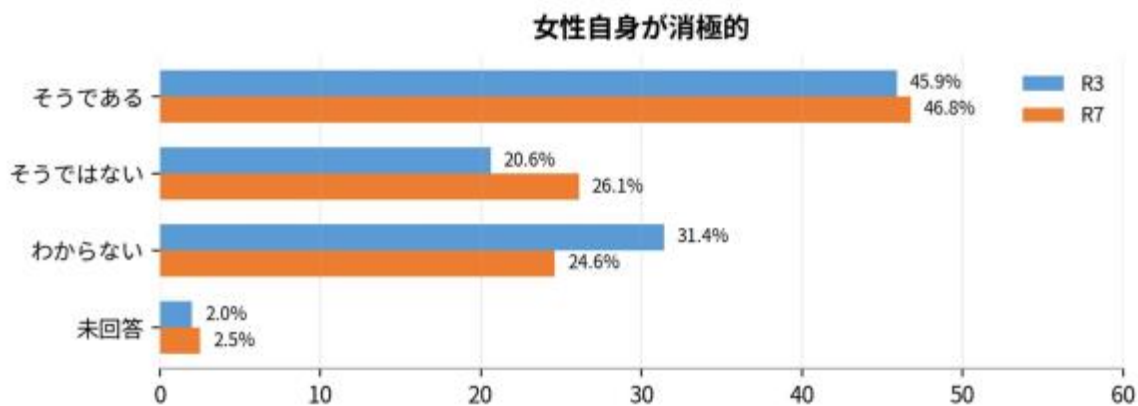


「そうである」は R3 の 28.2% から R7 は 23.9% となり、4.3 ポイント減少しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	28.2%	26.2%	43.0%	2.3%
R7	23.9%	32.0%	41.5%	2.5%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【女性自身が責任ある役職につくことに消極的である】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

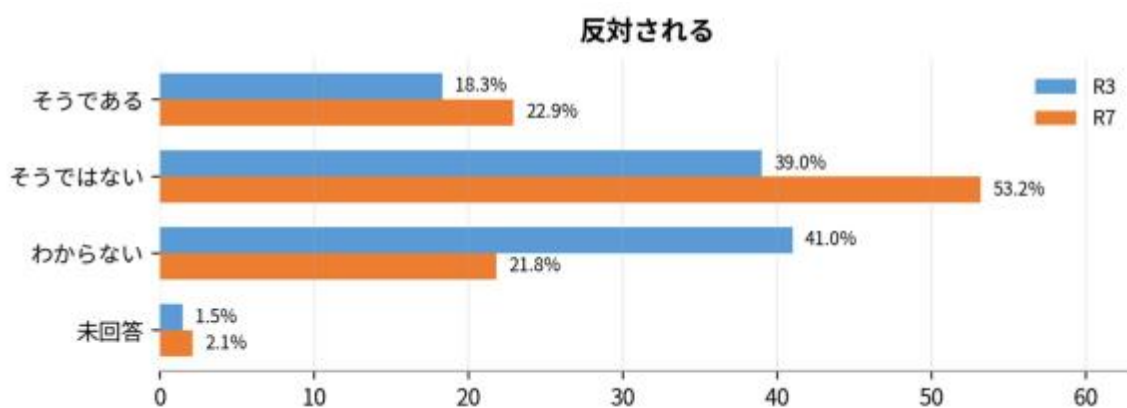


「そうである」は R3 の 45.9% から R7 は 46.8% となり、0.9 ポイント増加しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	45.9%	20.6%	31.4%	2.0%
R7	46.8%	26.1%	24.6%	2.5%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

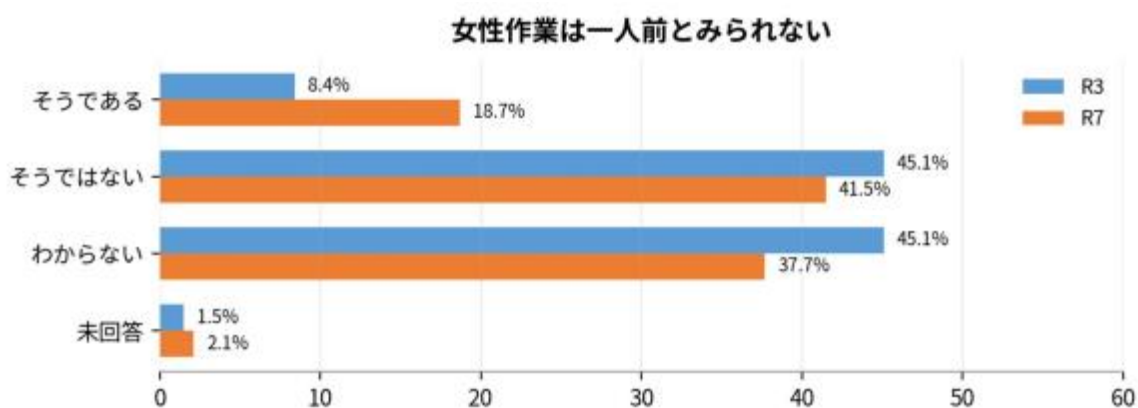


「そうである」は R3 の 18.3% から R7 は 22.9% となり、4.6 ポイント増加しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	18.3%	39.0%	41.0%	1.5%
R7	22.9%	53.2%	21.8%	2.1%

問 18 方針決定過程に女性の参画が進まない理由 【地域の共同作業に女性が出た場合、一人前とみられず差額金が発生する】

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

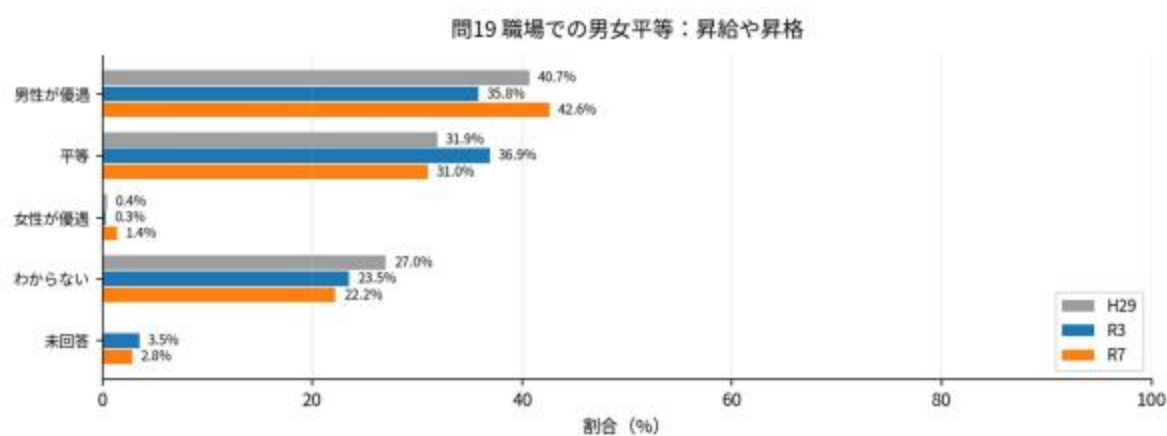


「そうである」は R3 の 8.4% から R7 は 18.7% となり、10.3 ポイント増加しています。

年度	そうである	そうではない	わからない	未回答
R3	8.4%	45.1%	45.1%	1.5%
R7	18.7%	41.5%	37.7%	2.1%

問 19 職場での男女平等について：昇給や昇格

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

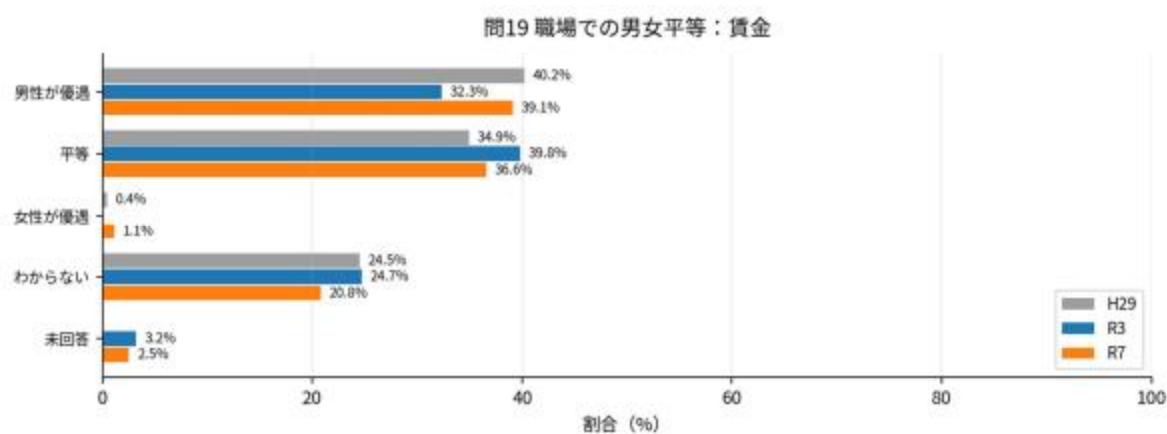


令和7年では「男性が優遇」が42.6%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「わからない」で、-4.8ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	40.7%	35.8%	42.6%	+1.9
平等	31.9%	36.9%	31.0%	-0.9
女性が優遇	0.4%	0.3%	1.4%	+1.0
わからない	27.0%	23.5%	22.2%	-4.8
未回答	0.0%	3.5%	2.8%	+2.8

問 19 職場での男女平等について：賃金

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

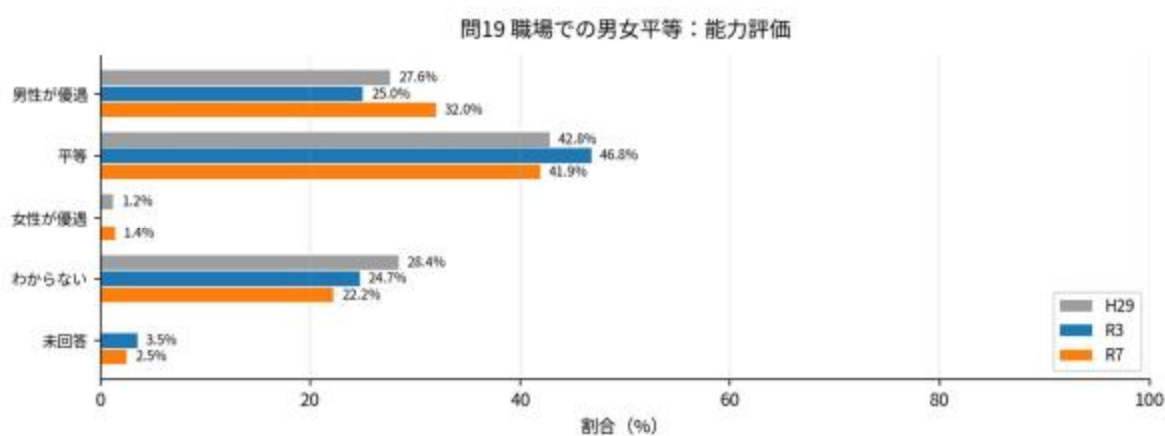


令和7年では「男性が優遇」が39.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「わからない」で、-3.7ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	40.2%	32.3%	39.1%	-1.1
平等	34.9%	39.8%	36.6%	+1.7
女性が優遇	0.4%	0.0%	1.1%	+0.7
わからない	24.5%	24.7%	20.8%	-3.7
未回答	0.0%	3.2%	2.5%	+2.5

問 19 職場での男女平等について：能力評価

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

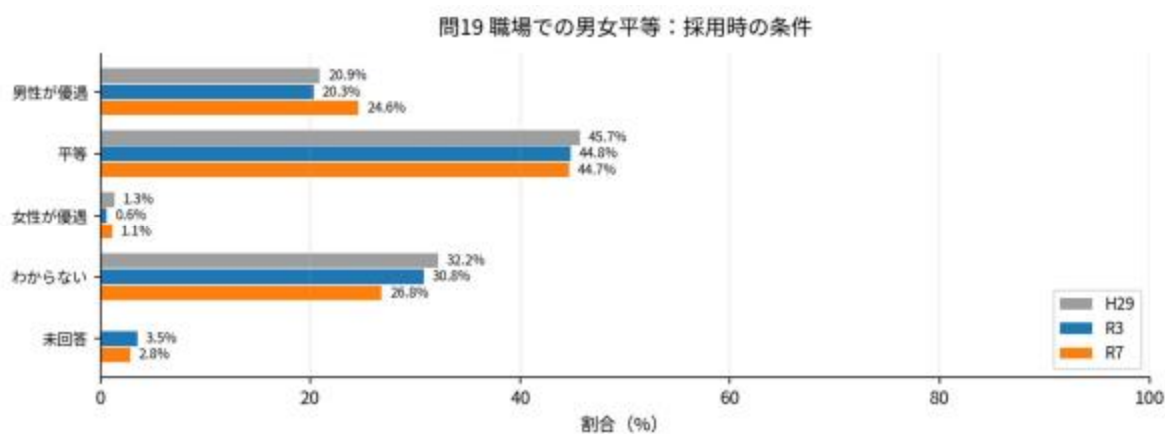


令和7年では「平等」が41.9%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「わからない」で、-6.2ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	27.6%	25.0%	32.0%	+4.4
平等	42.8%	46.8%	41.9%	-0.9
女性が優遇	1.2%	0.0%	1.4%	+0.2
わからない	28.4%	24.7%	22.2%	-6.2
未回答	0.0%	3.5%	2.5%	+2.5

問 19 職場での男女平等：採用時の条件

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

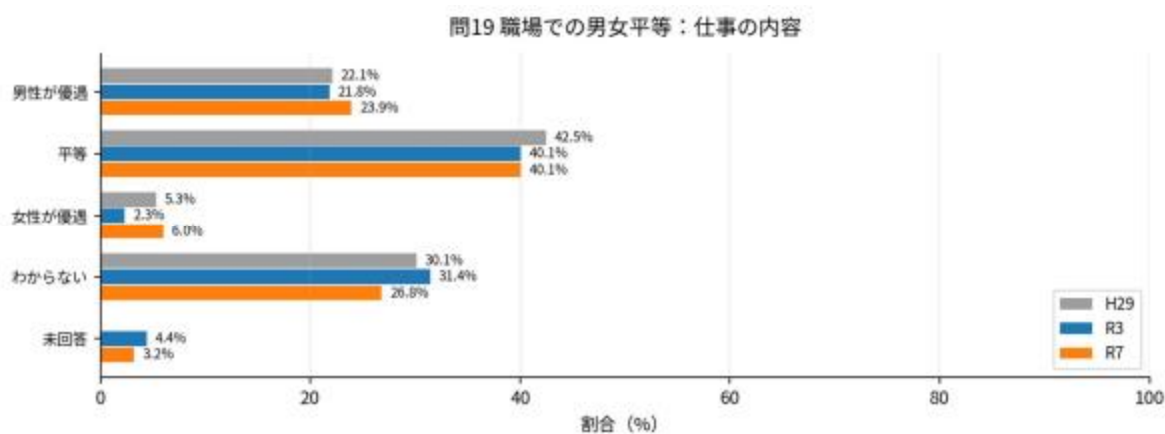


令和7年では「平等」が44.7%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「わからない」で、-5.4ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	20.9%	20.3%	24.6%	+3.7
平等	45.7%	44.8%	44.7%	-1.0
女性が優遇	1.3%	0.6%	1.1%	-0.2
わからない	32.2%	30.8%	26.8%	-5.4
未回答	0.0%	3.5%	2.8%	+2.8

問 19 職場での男女平等：仕事の内容

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

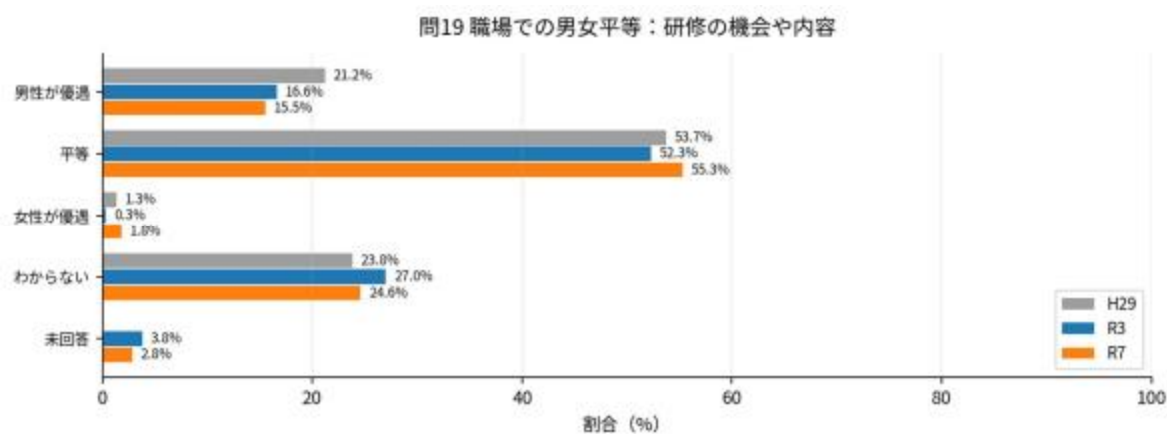


令和7年では「平等」が40.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「わからない」で、-3.3ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	22.1%	21.8%	23.9%	+1.8
平等	42.5%	40.1%	40.1%	-2.4
女性が優遇	5.3%	2.3%	6.0%	+0.7
わからない	30.1%	31.4%	26.8%	-3.3
未回答	0.0%	4.4%	3.2%	+3.2

問 19 職場での男女平等：研修の機会や内容

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

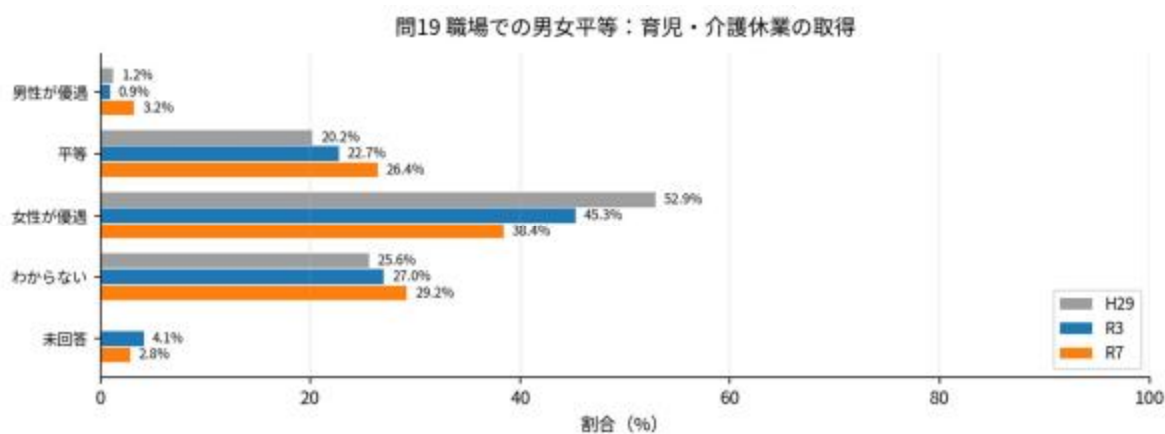


令和7年では「平等」が55.3%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「男性が優遇」で、-5.7ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	21.2%	16.6%	15.5%	-5.7
平等	53.7%	52.3%	55.3%	+1.6
女性が優遇	1.3%	0.3%	1.8%	+0.5
わからない	23.8%	27.0%	24.6%	+0.8
未回答	0.0%	3.8%	2.8%	+2.8

問 19 職場での男女平等：育児・介護休業の取得

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284

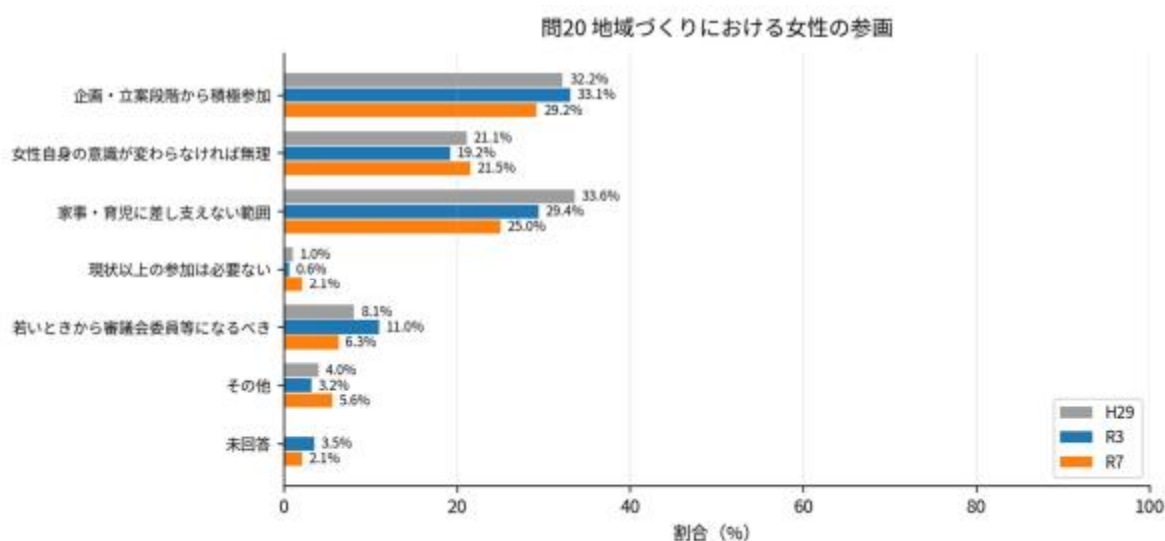


令和7年では「女性が優遇」が38.4%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「女性が優遇」で、-14.5ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
男性が優遇	1.2%	0.9%	3.2%	+2.0
平等	20.2%	22.7%	26.4%	+6.2
女性が優遇	52.9%	45.3%	38.4%	-14.5
わからない	25.6%	27.0%	29.2%	+3.6
未回答	0.0%	4.1%	2.8%	+2.8

問 20 地域づくりにおける女性の参画

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和 7 年では「企画・立案段階から積極参加」が 29.2%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「家事・育児に差し支えない範囲」で、-8.6 ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
企画・立案段階から積極参加	32.2%	33.1%	29.2%	-3.0
女性自身の意識が変わらなければ無理	21.1%	19.2%	21.5%	+0.4
家事・育児に差し支えない範囲	33.6%	29.4%	25.0%	-8.6
現状以上の参加は必要ない	1.0%	0.6%	2.1%	+1.1
若いときから審議会委員等になるべき	8.1%	11.0%	6.3%	-1.8
その他	4.0%	3.2%	5.6%	+1.6
未回答	0.0%	3.5%	2.1%	+2.1

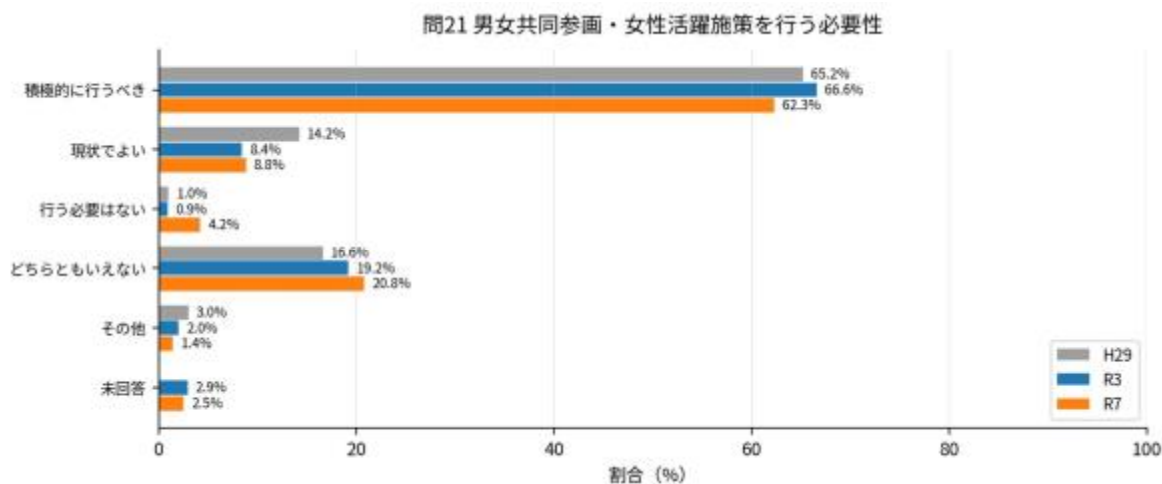
その他

どっちでもいい、やりたい人だけやれば。
社会風潮 ※このアンケートもそうだが世帯主にだしているのか、個人（女性）にもだしているのか。
まだ、男性がやるべきと思う人が多いから難しいと思います。

<p>どんどん参加したらよい。女性の社会は調和、平和を生む。男性社会の競争、争いはもう古い。どんどん女性優先になればよい。</p>
<p>正直に言うと 現状以上の項目以外当てはまると思います。</p>
<p>女性だから、男性だから…とくることがちょっと違うかなあ。</p>
<p>参加したいなら参加すればいい。</p>
<p>この中にはない。</p>
<p>素質やモチベーションの高い人が男女問わずやるのがよい。</p>
<p>総体的慣習意識が変わらなければ根本的には何も変わらない。</p>
<p>女性自身の意識ではなく、特に男性の意識、社会全体の意識改革が最も重要と考えます。古くからの慣習を意識改革しなければ、女性がどんどん流出していくと思っています。</p>
<p>男女問わず、若い世代を活躍させる。</p>
<p>男女問わない方がよいと思う。</p>

問 21 男女共同参画・女性活躍施策を行う必要性

回答種別：単一回答 / H29 n=既存比較値 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「積極的に行うべき」が62.3%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「現状でよい」で、-5.4ポイントです。

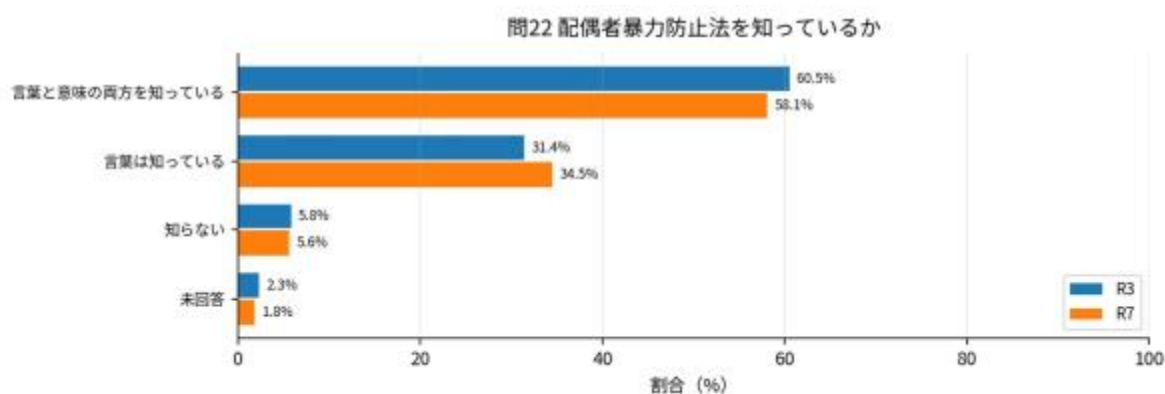
選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
積極的に行うべき	65.2%	66.6%	62.3%	-2.9
現状でよい	14.2%	8.4%	8.8%	-5.4
行う必要はない	1.0%	0.9%	4.2%	+3.2
どちらともいえない	16.6%	19.2%	20.8%	+4.2
その他	3.0%	2.0%	1.4%	-1.6
未回答	0.0%	2.9%	2.5%	+2.5

その他

ルールを作るよりも、柔らかに意識を変えていくイメージで進めるとよい。
女性活躍にも向き、不向きがあるからその人の実力に応じて参加、不参加を決めれば良いかと思えます。
まずは仕事面やその辺りのことから改善していくべき。

問 22 配偶者暴力防止法を知っているか

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

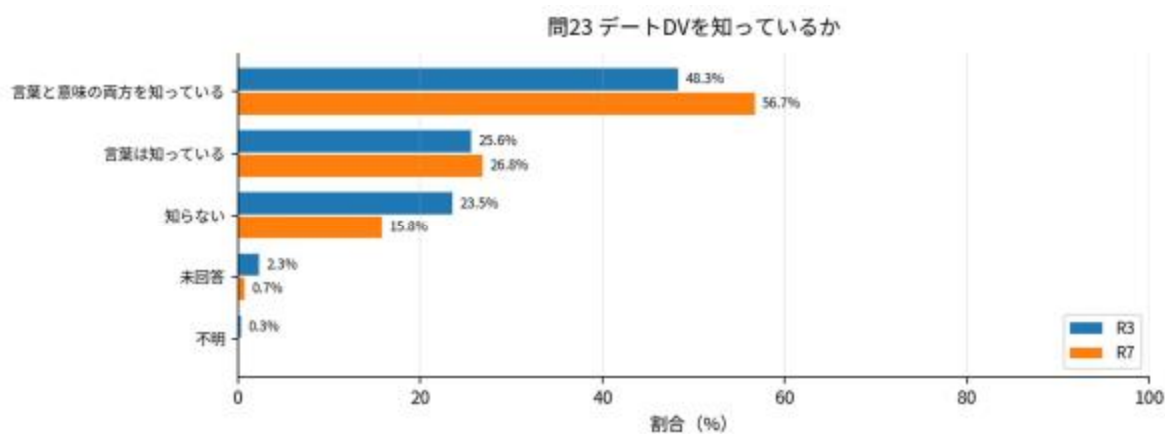


令和7年では「言葉と意味の両方を知っている」が58.1%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「言葉は知っている」で、+3.1ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
言葉と意味の両方を知っている	—	60.5%	58.1%	—
言葉は知っている	—	31.4%	34.5%	—
知らない	—	5.8%	5.6%	—
未回答	—	2.3%	1.8%	—

問 23 デート DV を知っているか

回答種別：単一回答 / R3 n=344 / R7 n=284

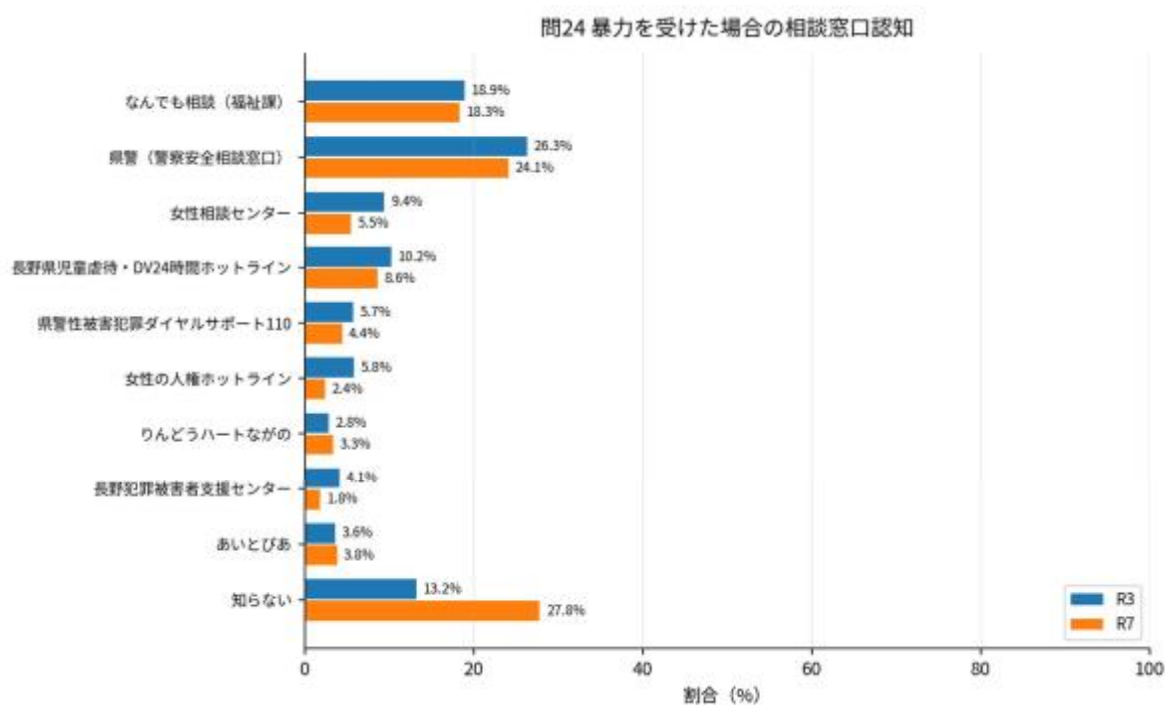


令和7年では「言葉と意味の両方を知っている」が56.7%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「言葉と意味の両方を知っている」で、+8.4ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
言葉と意味の両方を知っている	—	48.3%	56.7%	—
言葉は知っている	—	25.6%	26.8%	—
知らない	—	23.5%	15.8%	—
未回答	—	2.3%	0.7%	—
不明	—	0.3%	0.0%	—

問 24 暴力を受けた場合の相談窓口認知

回答種別：複数回答 / R3 n=344 / R7 n=284



令和7年では「知らない」が27.8%で最も高くなっています。経年で変化が大きい項目は「知らない」で、+14.6ポイントです。

選択肢	H29	R3	R7	H29→R7 差分 pt
なんでも相談（福祉課）	—	18.9%	18.3%	—
県警（警察安全相談窓口）	—	26.3%	24.1%	—
女性相談センター	—	9.4%	5.5%	—
長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	—	10.2%	8.6%	—
県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	—	5.7%	4.4%	—
女性の人権ホットライン	—	5.8%	2.4%	—
りんどうハートながの	—	2.8%	3.3%	—
長野犯罪被害者支援センター	—	4.1%	1.8%	—
あいとびあ	—	3.6%	3.8%	—
知らない	—	13.2%	27.8%	—

自由意見

<p>町内人口が減少していくのは隣村の住民税に対して箕輪町の対策が無く（むしろ高い）のが一番の原因ではないでしょうか。</p> <p>高いわりに還元されていると感じるものがなく、箕輪町に住む・えらぶメリットがないです。</p> <p>「女性活躍推進」等より目を向けるものがあるのではないのでしょうか。</p>
<p>少子化が進んでいくなかであえて活躍の場を作る必要性があるのか疑問です。活躍の場を作るのであれば保育の問題、育休で業務から離れる時や復帰した時の体制を整える必要がある。</p>
<p>今は、0才から保育園に子供を預けなければ経済的にやっていけない現状であるが、自分の子は「3才まで自分で育てる」ことができるようなゆとりの経済保障があってほしい。</p> <p>しわ寄せが、子どもにきているのではないか…。</p> <p>親が経済的、精神的な余裕のなさからくるストレスや負担がなくなるとだめ。</p>
<p>町議会には前回の選挙で女性議員が増えたのはいいことだと思うが、選択的夫婦別姓のことが議会で否決されたことは信じられない。伊那や辰野、南箕輪でも可決されているのに否決されるなんて、箕輪町に住んでいることが恥ずかしいと思ったのは初めて。この町は本気で男女共同参画を目指すつもりがあるのか、疑問に思う(そういう議員たちを選んでしまった我々の責任でもあるが)。Q13の質問も、氏が変わった場合、という前提で、選択肢が旧姓使用、改姓使用、わからない(どちらでもよい)というのは、男女共同参画のアンケートとしてはお粗末なのでは？また Q27 からの職場でのという質問も、職場によって全然違うと思うので答えようがないのではないか？自分の職場ではよくても、他の職場では違うということはざらにある。もっと実態に即した質問にしてほしかった。このアンケート結果はどこで公表されて、今後どんな形で生かされるのか？うわべだけの男女共同参画や女性活躍というのはうんざりだ。</p>
<p>平等を疑問に思う。</p> <p>男性の力と体力てきな事には、女性はどうしても劣ってしまう。</p> <p>男・女が同じ事をやるのは無理がある。適材適所が良い！！</p>
<p>Q18 現在あるいは現実</p> <p>Q19 4 わからない = そう感じていない</p>
<p>親も男女共同参画を学び、学校での男女共同参画について学ばなければなかなか進まないかと思う。</p> <p>職権により、男女共同参画は異なると思います。</p>
<p>男・女とはっきり分けた中で育ってきたので、今の時代そうでもない区別もあり…ずい分変わったと思います。</p> <p>まだまだ、女性参画といわれてこれからだと思います。</p> <p>今の生活に不満はないですが、これからもっと男女関係なくあたりまえになるといいと思います。</p>
<p>男女平等、共同参画と言っている時点で… 平等が当たり前だと思っているので、やりたい人が積極的にやれば良い。</p>
<p>女性も社会で活躍することはもちろん大切だと思いますが、その言葉だけが一人歩きをして役職の人数が増えたらいいとそれだけになってしまっている気もします。</p> <p>やる気と能力の応じてきちんと選んでいく必要があると思います。また男女平等といえど、男性と女性は生物的にも違うわけで子どもを産むのは女性しかできません。</p> <p>古いと言われようがいいものはいい、大切なものは大切、やはり女性らしさ、男性らしさを日本文化に根ざした風習は大切にしていきたいです。</p> <p>女性が安心して子どもを産み、守り育てる社会になればいいと思います。</p>
<p>男女共同参画・男女平等とおもて向きとなえながら、事あるごとに「だから女は**なんだ」と話す者を、あちらこちらで多数見る。</p> <p>これを見て、眉をひそめる男性もいるがそれを注意できる雰囲気は何もない。</p>

<p>ほとんどの女性が育児を行い、制度とかを決める人たちがほとんど育児参加をしていない。男性がやっているのだから分かるわけがない。</p> <p>地域の女性に対し下に見ている人も多くその人たちがいなくなれば何も変わらないと思う。</p> <p>若い人の意見ももっと聞いて最新の情報に対応できるようにして欲しいと思う。</p>
<p>男性の思考が、まだ古い感の人が多かったり、女性が出ていっても発言するとモアハラ・セクハラをうけたりする人が多いと聞きましたので女性がもっと積極的に出ても受け入れてくれる環境が必要だと思いました。</p>
<p>郵送 子育て中の家にもう少し制度を増やしてほしい。</p> <p>子供の遊び場がもう少しほしい。</p> <p>商業施設を増やしてほしい。</p>
<p>女性の意識をかえなくてはすすまないと思う。</p>
<p>言葉自体がもう古い、、、固い。私たちのこの世界というのは、「意識」したものが全ての現実を創っている。(引き寄せ、現実創造)</p> <p>そのため、今までの「〜こうあるべき」という古い信念体系、観念体系を持ったまま、いくら、「男女平等を！」と言ったところで、根本にある「意識」が古いまま変わっていなければ、現実は何も変わらない。</p> <p>何よりも大切なことは、とにかく「意識」である。</p> <p>「意識」を180° 転換できるほど変えてしまえば、現実はいとも簡単に変わっていく。本当はどうなりたいのか、どんなふう生きていきたいのか、心から望む本音に耳を傾け、その気持ちに正直になり、そこへ意識を向け続ける。</p> <p>深刻にならずできる限り軽やかで、わくわくする意識を持ち、新しい時代を創造していく。そんな人々があふれる街になれば最高にすばらしい！</p> <p>P・S 新しい時代のキーワードは「簡単さ」「シンプルさ」です。</p> <p>難しい施策はいりません。誰もが理解でき、スーッとふにおちる簡単でシンプルな取りくみを楽しみ気持ちで考えてみるのをおすすめします。驚くほどスムーズに転開すると思います。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>男女って言ってる時点でダメだと思う。</p> <p>やる気のある人が男でも女でもやるべき。</p> <p>共同にする必要ないんじゃないかと思う。</p> <p>箕輪町わ大スキだけ！！</p>
<p>特にありません。</p>
<p>男性と女性とは、異なる事は、多々あります。</p> <p>男性の方は力はある女性には、細かいところに目が配れる方が多いのでは。</p> <p>男性女性すべて同じではないので、個人個人異なりますので</p> <p>その方にあった仕事を分担すれば良いのでは。</p>
<p>問 24 警察相談専用電話←言ってもなかなか動かない と記載あり。</p>
<p>すみません。(主人に来たアンケートです) 60代主人半分、50代妻半分の意見が入っています。文章を記入は、50代妻の私の意見です。</p> <p>私は会社で総務課部長(執行役員)をしております。(家庭、お義理、地区のこと)を犠牲にしているという実感があります。</p> <p>役職をしている以上、地区の役を引き受けることは難しく。地区もお義理も、コロナの時の状況でちょうど良かったなあと思っています。</p>
<p>人口減により、若いとか女性だからと言っているといろいろ成り立たなくなってくる。</p> <p>いろいろな人が参加していかなければいけない状況になってきていると思う。</p>

<p>子育て世帯や育児をしてるママが頼りやすい受け皿を地域全体で作っていくことで、女性も平等に社会活動に参加しやすくなると思う。</p> <p>また、受け皿を作るのが難しいなら子どもも一緒に受け入れられるような活動をしていくのがいいと思う。</p>
<p>この人口減少のなか、少ない人口で持続可能な地域経済に必要なことは、男女共同参画の広いとらえ方で、老人を含む男も女も能力に応じた労働力を投入することです。</p> <p>働ける健康な体や精神を維持するシステムや少ない能力でも有効な労働力となるシステムを DX 推進を強化して構築する必要があります。</p>
<p>女性の権利を主張しすぎ。</p>
<p>女性の積極さを望む。</p>
<p>現在介護士として仕事をしていますが、毎日が大変で意見提案など考えられません。生活も大変ですし、生きていくことが精一杯なのです。</p> <p>色々わかりますが、この問題の前にどのようにしたら皆が潤いのある生活がおくれるか考えてほしい。</p>
<p>実際問題、男性と女性は同じ人間というくくりでも、違う生き物であるため、完全に平等というものは今後も達成することは困難だと感じる。</p> <p>ならば、未来のある子どもたちの成長、発展に繋がる社会を全大人が協力して作り上げていくべきだと思っています。</p>
<p>若い人達が自由に意見を出し合い、男女の差がなく豊かな生活を送れるような世の中になるよう願います。</p>
<p>回答は 10 分では終わりませんでした。</p>
<p>女性は家事、育児があり家庭を守る事が先立ってしまう為なかなか政治に参加する事がネックになっているが、もっと男性の理解を得て政治に首をつっこんでほしい。</p> <p>金銭も女性の方が強いし、細かな所に気配りができると思うのでどんどん女性参加して欲しい。</p>
<p>賃金・昇格などが、男女平等でなければ「少ない」とか「どうせやっても」という気持ちが勝って、男の人と同等にやろうとはならないと思います。</p>
<p>女性の参画は必要だと思うが、何でも無料にして未満児から多く保育園に入れるようにすれば良いという様な今の現状はどうかと思います。</p> <p>それよりは、育休を充実させて（期間、その間の収入）育休後に働ける環境を整えることの方が必要ではないでしょうか。また、育児の次は自分自身の体調変化（更年期障害）、介護が待っている方もいます。</p> <p>そういった所への保障は今の所見えてきません。今の 40 代 50 代の女性の方への保障（この世代は、子育て中には今の様な優遇は無かった）にも目を向けてもらいたいです。</p>
<p>前述した通り、小さい頃から女・男共に参画に対する教育を家庭学校ですべきで、大人になってからのこうしたアンケートを取ることで自体まちがっている。</p> <p>行政も大きく変わるべきで、あまり町民に投げ掛けるべきではない。以上。</p>
<p>男女共同参画という言葉自体が古い。多くの女性が世間で活躍されているので、女性に特化した言葉や施策を積極的に行うことが今後必要なのか、考えても良いのではないか。</p>
<p>男女平等の理念は理解するが、労働の種類により男女共々の適正が生じるのはやむを得ない。</p> <p>適材適所が正当だと思う、その結果として男女比率に差が生じるのは仕方ない。</p> <p>企画、立案などは、平等に配置可能と思う。</p>
<p>ジェンダーレスをもっと取り入れたら、仕事にしる、服装にしる。</p>

<p>女性のことに限らず、就活で事務仕事なので女性の殻を希望しますだの言われた応募すら断られることが割とある。男女雇用機会均等法とは文言だけの法だったのだろうか。 外からの人だけでなく、今住んでる人のためにお金を使ってください。税金を払っているのがバカらしくなる。</p>
<p>女性側の考えも取り入れていくことで、町は更に住みやすく、発展していくと思う。 ぜひ女性の意見も大事にしていてもらいたい。</p>
<p>各家庭環境や地域性が深く絡み合い、平等公平さを感じられないことがあります。家庭内のモラハラ、フキハラも問題です。</p>
<p>女性が育児をしながら働く事がこの地域では大変です。 今までしていない事をするのは難しいと思いますが、テレワークを積極的に取り入れたり、時短勤務への理解をして欲しいです。</p>
<p>数年間、管理職を抜擢する立場にいたが、いつも男性より女性が優秀だった。男性からは選びようがなかった。女性管理職が少ないとすればそこに能力ではない何ものが介在しているということだと思う。</p>
<p>男女問わず自分の意見を伝え、気軽に意見交換し合え、行動に責任も持つことを学校時代に身につけて欲しいです。そして社会に出たら、社会にそのギャップがあってはならないと思います。田舎は、特にその慣習が職場でも地域でも根付いていて、改革が難しいと思いますが、阿部知事同様に、町としてもメッセージを発信し、土壌改良していただきたいです。活躍できる女性が大勢いるのに、皆さん目立ちたくないとの思いから、発揮できていません。</p>
<p>男女を意識的に区別し、無理に女性にスポットを当て過ぎて、能力が伴わないのに役職につくケースもある。無理にやるのではなく、やりたい人が出来る社会になれば良いと思う。男女の区別なく選択した結果の比率が半々にならなくても、個人の考え方や、適性が違うということも受け入れていくことも必要ではないか。</p>
<p>潜在的に容姿や性別で仕事の量と質が変わる現状をどうにかして欲しい。</p>
<p>常会役員は順番で回るが他の役は女性が全くなならない。女性町議が多いからもっと積極的に参加を促すべきだ。また女性側にも積極性が欲しい。 木下区の公民館役員は昔から常会持ち回りでなく、友人、知人で回していき、男女いいバランスを保ち仲良くやっているのでも立派だと思う。(自分も昔携わったから有意義な4年間でした。)</p>
<p>ない。</p>
<p>女性の参画は良い面もあると思いますが、必ずしも正しいとも思いません。 参画を認めた上で、参画しないことも認めた方が良いのでは、と思います。</p>
<p>男女平等と言われつつも、男性は仕事に追われ家事育児などに参加できず、子供の世話などに母親1人で関わり、家事もして、心が折れる母親は少なくないと思う。家事育児のサポート体制や子育て支援で何か応援できることが増えれば安心材料が増えるのではないかと思います。</p>
<p>もっと人口が増えるように子育て支援してほしい。</p>
<p>男女共同参画について、こんな事をしています。等々情報があるとよいのでは、と思います。そもそも女性が、『男女共同参画』という言葉のせいで逆に苦しむのであれば、概念さえいらぬと思う。</p>
<p>ない。</p>